

表紙

ふとももパン

制作…ベレス解部

目次

テキスト	00	導入	3
トラック	01	焼きそばパンコキ	18
トラック	02	パン生地コキ	32
トラック	03	焼き上がり	45
トラック	04	フランスパン素股	47
トラック	05	パンを載せる	61
トラック	06	パンくずキス&耳舐め	63
トラック	07	発酵待ち	76
トラック	08	ふとももパン	79
テキスト	09	了	94

00 .. 導入

「ベーキングパウ子とお呼びください」

彼女の就労はその一言で始まった。

何故ベーキングパウ子という呼称を希望するのか。ベーキングパウ子を姓と名に分割することは可能か。脳内でパウコという文字の塊をパウ子に変換しながら思案している店長は、パウ子ではなくパウ粉の可能性もあるかもしれないと思い返す。

もし名前を呼び間違えた場合、パウ子とパウ粉ではどちらがより深刻なダメージとなるか。

一般的な人間の感覚からすると、『粉』より『子』の方が無難であるといえる。『子』はまだ人間の様相を呈しているが、『粉』は粉っぽい。人間を粉呼ばわりしたければその人物に粉っぽい要素を見出す他ないが、彼女に粉の要素はないので粉呼ばわりは不合理となる。逆に言うとな粉呼ばわりしたところで相手からすると不合理でしかないのです、仮に呼び間違えてもダメージは少ない。つまりダメージで言うとな『子』も『粉』も大差はないが、『粉』の方は合理性を欠いているので、『子』がより無難ということになる。

では一般的な粉の感覚からするとどうか。粉からすると『パウ子』は人間っぽいと感じるかもしれない。人間が粉呼ばわりされたところで不合理に終わるだけだが、もし粉が人間呼ばわりされたら甚大なショックを受けるかもしれないなどと店長は思う。

甚大なショックを受けたところで粉には表現のすべがない。少なくとも店長が今までに接触してきた粉々の中には、動揺した様子の粉は一粒もなかった。それが一般的な粉。

ただ、彼女が粉だった場合、どう見ても一般的な粉ではない。立って歩いている時点で一般的な粉の範疇から外れている。

その時、窓から射し込んだ光が彼女を包んだ。肌が白い。やはり粉かもしれない。

パウコ、ベーキング、パウ粉、パウ子。それらのいずれもが彼女の履歴書には記されていなかったことを店長は確信しているが、その確信はシュークリームの薄皮よりも脆い。店長の記憶にある彼女の履歴書は、過去と現在のストリームに揉まれたあけく裂断を起こし、今や一枚の付箋と成り果てた。

特技…流し目（思春期の少女風）

店長の記憶に留まっている彼女の履歴書の断片にはそう記されている。彼女はこの特技を通して己の人生から既に思春期が過ぎ去ったことを表しているのだな、と店長は思った。粉にも思春期は来るのだろうか。

じりじりと上ってきたベーキングパウコにまつわる疑問が店長の喉元を突き破りかけたが、ここはパン屋であり、店長はパン屋の店主であり、彼女はパン屋のバイトであるので、パンと多少なりとも関わりのあるベーキングパウダーをもじった愛称であればまあ問題はないだろうという考えで、店長は喉元の疑問を飲み下した。

「ベーキングパウ子さん」

「はい」

「今日は初日なので、とにかく店のパンを見て、パンに馴染んでください」

「御意」

パウ子のバイト初日は、焼きそばパンの側面を間近で凝視するという作業に費やされ、そして終わりを迎えた。

帰り際に焼きそばパンをひとつ進呈すると、パウ子は瞬間的に柴犬のような笑顔を見せ、深々と礼をして去って行った。

あまり機転のきくタイプではなく、ひとたびパンを見ろといえればレジも打たずにひたすらパンを眺めているようなトウヘンボクであるというのが、パウ子に対する店長の所感であった。しかしそのような些末な感想は、パウ子が初日の最後に見せた焼きそばパンに対する表情によって、跡形もなく雲散した。

パンへの情。それが店長の従業員に対する評価基準だった。

後にパウ子が無類の焼きそば好きであると発覚するのだが、その時には店長が評価の基準を紛失していたので、あの笑顔の矛先が焼きそばかパンかという問題は、やはり些末な問題に過ぎなかった。

そもそも店長が店主を務めるパン屋はそれほど繁盛しているとは言いがたく、実利というより見栄の為に従業員を雇ったようなところがあるので、多大な損害さえ与えてこなければ、例え従業員がチンパンジーでもなんとか事足りそうだった。

店の狭さを考えるとゴリラでは勤まりそうにないが、チンパンジーなら御の字、オランウータン危うし。

店長は従業員としての彼女と接するうちに薄くぼんやりとした確信を持った。

どうやら彼女はチンパンジーでも粉でもなく、人間であるようだった。

「パウ子くん」

「なんです」

「うちに入ってどのぐらい経ったかな」

「やめてください、セクハラですよ」

「すみません」

就業中のパウ子は常に表情が硬く、一部の常連客からは親しみを込めて仏頂面の堕天使と呼ばれていた。

わたしは生まれる前から天使です、というのが本人の談で、どうやら堕天使呼ばわりされることに關しては満更でもない様子であった。

ダテンシダテンシと持て囃しておけばパウ子がそこはかとなく上機嫌になることを悟った店長は、店の雰囲気づくりの為にパウ子を堕天使パウ子として祭り上げ、パウ子が常に上機嫌でいるように仕向けようとした。

そうこうしているとパウ子の方から、店の制服を白一色にしましょうと提案を持ち掛けてきた。例の柴犬のような笑顔に變ずる一歩手前である。

そこでもうひと押しすれば満面の柴犬を拝めていたはずだったのだが、浮かれたパウ子の毒氣に当てられた店長は、だから正常な判断が出来ずに、堕天使だからカラスのような黒ずくめだなどと答えてしまった。

パウ子は白を求めている。

つまりパウ子は『堕天使』が悪魔を意味する言葉であるという認識を持っていなかった。

クマ科にヒグマが居るように、テンシ科にもダテンシというのが居るのだと、パウ子はそう思い込んでいたのだ。

自分が悪魔呼ばわりされていたことを知ったパウ子はすこぶる機嫌を損ね、翌日、風呂敷で限界まで包んだ大量のおにぎりを担いで店にやってきた。

何をするつもりかと思って店長が黙って観察していると、パウ子はおもむろに風呂敷包みを開き、店内に陳列しているパンとパンの隙間にお

にぎりや並べ始めた。そして空いた時間でおにぎり用のポップを作成し、何も知らない哀れな客におにぎりをセッセとプロモーションしていた。

パウ子のことを仏頂面の墮天使呼ばわりした常連客にはタッパー詰めのおにぎりや押し付け、代金をふんだくっていた。

パウ子はその日を境に、名実ともに墮天使となったのだ。

そんな具合であるから、店長は一店一舗の主でありながら、唯一の従業員であるパウ子に威光のようなものを感じ、パウ子から受けた対応が例え理不尽であったとしても、こうして首を垂れることしかできなかった。

「店長」

「……はっ」

「セクハラではなかったかもしれませんが」

「そうですか？」

「わたしの思い違いでした。ごめんなさい」

パウ子はそう言って深々と頭を下げる。

「まあ、まあ、頭を上げて。ここはパン屋だから」

店長はなかなか頭を上げようとしないうパウ子の肩に手をやりかけてうつかり胸部を撫で擦ってしまう。しかしそれはパウ子がタイミングよく頭を上げたからであり、胸に触れたのはセクシャルハラスメントではなくセクシャル不可抗力というのが双方の合意で、パウ子はそれ以上店長を咎めなかった。

「ところで店長。もし余裕があれば、制服を新調していただませんか」

白一色に？ 一色に？ に？

店長は反射的に浮かんだ疑問を頭の中で始末して、別の疑問を口にする。

「汚れが落ちにくくなってきたかな？」

「綺麗です」

わたしが着ているのだから、と言葉を付け足すパウ子を横目に、店長はパウ子が制服を新調したがっている理由を思案する。

表から見る限り制服にはつれや綻びは無い。今まで着用し続けてきた制服自体に何か問題があればとうに気づいているはずというのが店長の見解で、新調を希望する理由になかなか思い当たらない。

ただ現行の制服を着飽きたという理由も考えられるが、パウ子の場合、そういったところには割りかた無頓着なようだから、それこそ墮天使事件の時のような特別な浮かれ具合が前兆として表れない限り、デザインの変更を目的に新調を願い出る可能性は薄いように感じられる。

「新調するのは構わないんだけど、理由は？」

パウ子は店長に対して凍るような視線を向けている。ただでさえトゲトゲしい表情に、つららのごとき鋭さが加わる。

彼女の瞳に宿る冷気の原因が分からぬ店長には、黙ってつららの一突きを待ち受ける選択しか残されていない。

「店長……」

そう言つてトングとトレイを手を取ったパウ子は店内の物色を始め、ハアとかホオといった息吹混じりの呟きを散らしながらパンを取り上げトレイに載せていく。トレイの上方がパンで埋まっていく様子を、店長はじつと眺め続けた。

パウ子が奥に陳列している焼きそばパンに手を伸ばす。

そのまま、背中を曲げた状態で固まるパウ子。

「店長。いかがですか」

「何が？」

「店長は今の私を見て、どのような印象を抱きますか」

「背中を曲げている店員さん」

「もうすこし下です」

背中の下には床があるだけだと店長は思ったが、まだ脚があった。そして下着があった。

店長はパウ子の肌よりも更に白い下着を凝視する。そしてようやくこの制服が抱えている問題点に気付いた。

気付いたというより、思い出したと言う方が適切かもしれない。

パウ子が着用している制服は、スカートの丈が少し短い。

程度として、少しという表現で事足りるかどうかを店長は思量する。

少し腰を曲げただけで下着が露出するような丈のスカート。それがパン屋の制服として、一般的な範疇から外れたものであることを、店長は失念していた。

「パウ子くん」

「はい」

「やはりセクハラだったやもしれん」

「お気になさらないください不燃物。いえ店長」

「切り過ぎた前髪のようなスカートを穿かせてしまつて申し訳ない」

「大丈夫です。経営者というのは、失敗をして前に進むものです。そういうものですから、お気になさらぬよう」

どうだろう。どうだろう。はいしどうだろう。パウ子が店長の肩に手をやって何やら囁いている。

パウ子が着用している制服は、パウ子をバイトとして採用した日に店長が急いで買いに走ったものだった。よく売れているという理由で深く考えずにそれを選んだのだが、やはりもう少し時間をかけて、パン屋の制服として相応しいものを見繕うべきだったと店長は今更後悔した。思い返せば、よく勤務中にパウ子の下着を目にしていたような気がする。

下着であつても上着であつても衣は衣に違いがないという観念に、店長は支配されていた。

いや、と店長は思い直す。支配と称するのもおこがましい、単なる自分自身の怠慢である。

「店長、頭を上げてください。ここはパン屋ですから」

「神聖なるベーカリーで、私はなんという罪深いことを」

「わたしにこの制服を支給することが罪であると、そういう認識を持つておられたのですか？」

「いや、なかった」

「本当に？」

「はい」

「……胸が」

「ん？」

「お前は胸が平坦なのだから、せめて脚とパンツを出して店に貢献しろという意味合いで、この制服を支給されたのだと思っていたのですが」

「いや、そういうつもりは全く」

確かにパウ子の胸は無きにしも非ずといったところで、先ほど店長が誤って撫で擦ってしまった時も、目を開けていたからこれは胸であると認識出来たものの、もし店長が目を瞑っていれば、胸に触れたという認識を持つことは難しかっただろう。

「ではわたしは何の為に脚とパンツを晒していたのですか」

「何の為にというより、私の所為かな」

「やはり店長は有り余る性欲を抑えきれず、従業員をその捌け口にするような、霊長類の風上にも置けぬ最低の社会不適合者だったのですか」

「そうではなくて」

「そうではないならどうなのです」

「それを説明するには開けっ広げにしなければ伝わらないと思うので手っ取り早く開けっ広げにするが、つまり私はインポなのです」

「は？」

「インポテンス」

「嘘をおっしゃい」

「私が嘘を吐くような人間に見えるかね」

「嘘を吐くかどうかは分かりませんが、人間性は嘘くさいです」

「インポの診断書があるよ」

「そんなものより、現在進行形の勃起不全であることを、今ここで証明してください」

あの短いスカートがセクハラに該当するという認識がなかったとはいえ、店長は結果的に、慢性的なセクハラを働いてしまったことになる。

ここで自分がインポであるという証を立てなければ、この場で変態セクハラゴミクス野郎の烙印を押され、唯一の従業員からの信用を失うばかりか、店を畳む惨事になりかねないと店長は考え、申し訳程度の決意を固めた。

「分かった。何でも言ってくれ。出来る限りのことをするから」

「子宮を舐めてください」

「どうやって？」

「そんなこと、わたしに訊かないでください」

舐める舐めないの問答をしばらくやった後、そもそも正常な性欲を備えた人間が子宮を舐めたところで勃起するのかどうか判断がつかないという合意に至り、結局パウ子は譲歩して、店長は子宮を舐める代わりに服の上からパウ子の胸を撫で擦ることになった。

店長は言われるがままにパウ子の胸を掴んだ。

掴んだつもりだったが、掴み損ねた。そこには掴めるほどの突起が存在しなかった。

店長は早々に掴むことを諦めて、撫で擦り始めた。

入念に撫で擦れば、そこに確かな膨らみを感じることができる。やはり胸はどのような形でも等しく胸であった、と店長は思う。

パウ子は相変わらずの仏頂面でワキを締め、二の腕と胸で店長の手を挟んだ。

やんわりと熱を帯びたパウ子の胸に触れながら、店長はこれが100パーセント胸であるという認識を持っていた。

生物の胸は百パーセント胸に過ぎず、百パーセント胸ということはそこで完結しているのであって、そこから何らかの不足が生じて欲望に発展するには、余地が無さ過ぎた。

「どうかな」

「検証中です」

店長の手つきと股間を交互に見つめるパウ子。

「店長がこの手で触れているものはなんですか」

「脂肪です」

「おっぱいと言いなさい」

「おっぱい」

店長はそのまま揉むとも撫でるともつかない仕草でしばらくスリスリ続けたが、さすがにこれ以上は無意味であるという双方の意思が交わり、事は終わりを迎えた。店長の股間は微動だにしない。

「店長。まさかとは思いますが」

「なんだね」

「こんな草履のような乳では興奮のしようがないと、そう仰りたいのですか？」

「落ち着いて」

パウ子が生長の方へ一歩踏み出し、ぐいと顔を寄せる。

その顔に表情はないが、目には力があつた。

「分かりました。では次はここを」

そう言つて軽く摘まみ上げたスカートの下から、象牙のような脚が現れた。

もともとパウ子の脚はその大部分が露出していたのだが、スカートをたくし上げる動作が加わることで、脚の曲線がより強調されて見えた。

店長はそれをまじまじと見ているうちに、自分の中に何かしらの情緒が生まれつつあることに気付いた。よく分からない歪な形の狂った美術品を見つめている時の感覚に似ていると店長は思った。これがエロティシズムというものなのかもしれないが、店長の性器は萎んだままで、店長は過去にエロティシズムを実感した経験もないので、この情緒がエロティシズムに相当するかどうかは、やはり判然としないままだった。

「目つきがいやらしいですね」

「そうかな？」

「いやらし大明神」

「今まで無縁だったもので」

「いやらしさにですか」

「はい」

「そういうところがいやらしいと言うのです」

店長は自分にかかった疑いの晴らし方を模索していたが、手探れば手探るほど辺りは闇となり、潔白への道筋を見出すことは到底不可能に思えた。

「跪いてここを」

「はい」

店長はパウ子の指示に従いパウ子の脚を弄り始める。

目線と同じ高さにあるふとももを両手で掴んでいるうちに、店長は囚人のような心持ちになった。

パウ子のふとももは想像の中の鉄格子よりもいくらか太く柔らかだったが、その手触りを除けば、店長にとっては鉄格子と同質の物体だった。

「なんとまあいやらしい」

いやらしい行為を強要されている、と店長は思った。

いやらしい触り方をしているという実感は全くなかったが、傍から見ればいやらしく見えるのだろうという感覚はあった。

色白でほどの肉付きをした女性のふとももを撫でるという行為は、大抵の人間にとっていやらしい行為であるようだった。店長は人々の間にそういった共通認識があることを知っている。

いやらしさというものは恐らく生殖本能によってのみ形成されるものではなく、大半の人間がその行為に性的魅力を感じているという共通認識が、性的快感を増幅させているのだらうと店長は思った。そういったことどうでもいいことを考えずには居られないほど店長の心は空虚であった。

「スカートの中まで進んでみましょう」

「どの辺りまで？」

「鼠径部の辺りまで」

「パウ子くんはスカートの中を弄られることに抵抗はないの？」

「その質問はセクハラに該当します」

「すみません」

「もし店長に性欲があると判明したら、その時は警察に出頭するので、大丈夫です」

「何が大丈夫なのかよく分からないんだけど」

「もし店長がセクハラ変態ゴミクス野郎だと発覚しても、しっかり刑に服してもらえればわたしの憂さは晴れるので」

「性欲の発露を促すだけなら他にも方法があるのでは？」

「虫に刺されたと思って我慢します」

「害虫との接触を厭わない人はどこへ行っても暮らしていけるだろう」

「話を逸らさないように」

「ここまでする必要はないかと思いますが」

「店長がさっさと勃起しないからです。なぜ店長は勃起しないのですか。さっさとこの柔らかいおちんちんを勃たせてください」

「性欲を持った男が自然に勃起するように、性欲を持たない男が勃起に至らないこともまた自然だと思いますが」

「それならば、余計に不自然なのです」

「しかし、私は生まれてこのかた、性的興奮を感じた経験が一度もないのだから」

「……まさか、自覚がないのですか」

「何の自覚が」

「店長は……勤務中に度々勃起しているではないですか」

「うん？」

「勃起の国から来た男と言って差し支えないぐらい、頻繁に勃起しているでしょう」

「何を言っているのかね」

カラアアン——滅多に鳴らないドアベルが鳴る。

パウ子はドアが開ききるより前に店長を脚で押し退け、舞い落ちる木の葉のような動作で客を迎える。

色々とソツのあるパウ子だが、客を迎える時のお辞儀だけは何故かやたらと美しいので、このお辞儀を一点強化しすぎた故の結果なのだと店長は確信している。

店長はレジを打って客にパンを手渡す。

淡いバターの香りをまとったクロワッサンが四つ、店長の手から離れていった。今の時間帯なら、今朝焼き上げたクロワッサンはちょうど食べ頃である。

客を見送った後、勃起の件よこのまま有耶無耶になれという一心で、店長は陳列しているパンをチェックし始めた。

「今日も上手く焼けた」

「店長」

「この膨らみっぷり」

「店長」

「焼き色が良し」

「店長」

パンと店長の間に、パウ子が割って入る。

「自分の股に付いているモノをごろんなさい」

店長は視線を落とした。

するとどういふ訳か、豪然たるインポである店長が、ものの見事にペニスを立てさせていた。

「店長。今から申し上げることは店長の股間を常々観察してきたわたしの憶測ですが、……店長は、パンに触れただけで勃起する変態かもしれません」

トラック 01…焼きそばパンコキ

店長。では最後に、この焼きそばパンで自慰行為をしていただけますか。

……出来ませんか？

店長はパンに触れただけで勃起するような変態なのですから、パンでオナニーをするぐらい、造作ぞうさも無いことだと思っただけですが。

さあどうぞ。

店長が焼いたパンに、わたしが焼いた焼きそばを挟みました。

オナニー用の焼きそばですから、スパイスは抜いてあります。ご心配なく。

なので、さつさとパンでオナニーするところをわたしに見せてください。

これは異常な行為ではありません。

そもそもこの申し出は、店長がパンに対して劣情を催す体質であるところから起因しているのですから、そこを起点として考えれば、パンでオナニーをすることが異常とは言えないはずです。

パンに欲情する店長がパンをオナニーの道具とすることは、至って自然な流れです。

店長。店長は生まれながらにして勃起不全だったそうですね。

だからオナニーをしたくてもやり方が分からないと、そういうことですか？

しかし店長は勃起しているという自覚がなかっただけで、実際は頻繁に勃起しておられたのですから、何かの弾みでオナニーに相当する行為に勤いそしんだことがあるのでは？

……本当にありませんか？

本当に？

……分かりました。では、わたしが店長にオナニーを教えます。

その質問はセクハラに該当します。

誰しも年頃になれば、オナニーのやり方ぐらい自然に覚えるものです。

どうぞ、そのパンをおちんちんに宛^{あて}がつてください。

……そこはおちんちんではありません。キンタマです。

まさか、どれがおちんちんか分からないのですか？

そんなはずはないでしょう。

おや。おちんちんが膨らんできましたね。

キンタマの裏側にパンを擦りつけるのがそんなにいいんですか。

おちんちんがどんどん膨らんでいますよ。

ここまで太くなると、もうおちんちんとは呼べませんね。

おちんちんでは響きが可愛らし過ぎます。

ちんぽです。いやらしい勃起ちんぽ。

いかがですか。ちんぽが大きく膨らんでいるという自覚はありますか？

わたしはこの勃起ちんぽを、勤務中に度々見せつけられていたのです

が。
いつもは服を着ているのである程度のサイズに収まっておりましたが、丸出したとここまで長くなるのですね。

店長のちんぽを生で目視してしまったので、次からは股間の膨らみを目にする度に、この図々しい反り返りを想像してしまいそうです。

今後は勃起手当をいただきますと。

キンタマ弄りに夢中ですね。御自分で焼いたパンをキンタマに擦りつける気分はいかがですか。

キンタマで気持ちよくなれるのは勝手ですが、ちんぽも弄っていただかなければ^{ちち}埒が明きません。

ちんぽの弄り方は分かりますか？

そうですよ。

膨らみ放題のちんぽをこうして握り込んで、上下にシコシコやるんですよ。

これがちんぽナニーです。店長以外の男性はみんなこうやって自分のちんぽをシコシコ慰めています。

……何故わたしが握った途端に萎えたのですか。

何故柔らかいおちんちんに戻ってしまわれたのですか。

わたしの手で性器を扱^{しご}かれるのが生理的にキツイということですか？

……パンを貸してください。

……一気に元気を取り戻しましたね。

焼きそばパンを押し付けただけで、ここまでガチガチの勃起ちんぽに変貌してしまわれるのですか。

焼きそばの中にちんぽを埋めただけです。パンには殆ど触れていないのに。

店長はパンならなんでもいいですね。

パンをチラつかせただけですぐパンパンになる、安上りなちんぽです。
安いちんぽを焼きそばパンでシコシコしていきます。

シコ……シコ……。

シコ……シコ……シコ……シコ。

シコるごとに跳ねないでください。

シコ……シコ……シコ……シコ。

……なんですか。

ちんぽ扱きには、『シコシコ』と口に出しながら扱くという慣習かんしゅうがあるのです。

……気持ちいい？ そうですか。

わたしはそんな店長のことを堪らなく気持ち悪いと思っています。

恐らく焼きそばパンもわたしと同じ心境でしょう。

パンの方は店長が自ら焼いたものなのでまだいいとしても、焼きそばはわたしの焼きそばなので、焼きそばが可哀想です。

こんな変態のちんぽをお世話させられて、実に可哀想。

この焼きそばは、いつもより甘めのソースで焼きました。

油が絡んだ麺にドロドロの甘口ソースをたっぷり掛けて、ちんぽに合うように、モチモチに仕上げました。

味の違いは分かりますか？

尿道に麺を突っ込んでみましょうか。

……店長のちんぽが焼きそばを押し退けて、パンの割れ目にグイグイ入り込んでやがります。

もつとちんぽにパンを密着させて欲しいんですか。

店長は本当にパンがお好きなのですね。

ソースを吸ったパンが、店長のスケベちんぽに吸い付いています。

ひどい勃起具合です。我慢汁を漏らしながらみつともないぐらい膨らんでおります。

このパンは焼きそばパンであって、ホットドッグではないのですが。

我慢汁をビュクビュク漏らさない。

パンにちんぽを押し付けてこないでください。がつつきすぎです。

もう少し余裕のあるオナニーを見せていただかないと、パンに軽蔑されてしまいますよ。

店長は……夢精をした経験すら、ないのですか？

……そうですか。射精童貞ですね。

射精の経験がないので、射精童貞です。

射精童貞のオナニー童貞です。

大好きなパンにオナニー童貞を卒業させて貰えてよかったですね。

またちんぽが大きくなりました。

性欲がないだのなんだののたまっておきながら、パン一つでここまですの欲求を剥き出しになるのですから、今後は御自分のちんぽがどうしようもない変態ちんぽであるという自覚を持つてくださいね。

店長のキンタマに詰まっている精液は、この焼きそばソースよりも更にドロドロで濃厚なのでしょうね。ちんぽをブルブル振ってとんでもない量を出しそうです。

もしかすると、今までに一度も射精をせずに生きてきた店長は、このパンパンのキンタマに、年齢分の精液を蓄えておられるのかもしれないね。

このまま焼きそばパンでちんぽをズリズリ擦って、年齢分の精液を全て射精したいですか？

店長の人生初射精まで、パンが持つかしら。

店長がスケベちんぽをグリグリ擦りつけてくるせいで、パンが削れて……。

ほら、ちんぽの下に手を広げてシコシコすると……こんなにパンくずが。

……舐めますか？

どうぞ。

……パンでちんぽをシコられながら舐めるパンくずは美味しいですか？

ペロペロしすぎです。そんなにわたしの指を舐めても、もうパンくずはありませんよ。

ちんぽをピクつかせないでください。オネダリですか？

パンくずはお預けです。

店長はオナニーを覚えたての猿なのですから、まずはちんぽ擦りに集中して、変なクセがつく前にしっかりとちんぽ射精を学習しましょう。

息遣いが荒いですよ。猿ではなく、犬でしたか。

はあ、気持ちいいと。そうですか、いちいち報告してこないでください。

オナニーは気持ちよくなる為の行為なのでですから、気持ちいいのは当たり前です。

その歳でオナニーの味を知ってしまった店長は、明日からパンでシコシコ三昧の生活を送られるのでしょうか。

自分が焼いたパンでちんぽを弄るのは勝手ですが、わたしの目に触れないところでやってくださいね。

こんないやらしい形のちんぽを見せつけられながら童貞クサイ我慢汁のニオイを嗅がされたら、今の時給では割に合いません。

ちんぽのニオイ、御自分で感じませんか？ 凄いですよ。

焼きそばソースの香りが、店長のオスクさいちんぽ臭で上書きされてしまいました。

店長のオナニー臭が、わたしの制服と、パンに、染みついてしまいました。

ちんぽのニオイを吸ってもらうのが嬉しいんですか？ 変態セクハラ

ゴミクズ野郎……。

……分かっております。

店長は従業員にパンチラ寸前のスカートを穿かせて勃起を見せつけるような変態セクハラゴミクズ野郎ではなく、ただ女性に興味がないだけですよね。

だからそういったことに無頓着なのですよね。

店長はただパンに狂っただけの変態です。分かっております。

それを確認する為に、こうして焼きそばパンで店長のちんぽをシコシコしているのです。

店長は……わたしの脚に欲情して、素知らぬ顔でパンチラスカートを穿かせるような、そんな下劣な人間ではありませんものね？

店長……我慢汁の量が凄いです。

焼きそばが……スケベ汁で台無しです。

焼きそばパンの中は蒸れ蒸れでしょうね。パンの内側が少しふやけているようです。

……焼きそばパンをエロい目で見ないでください。

このパンに挟んでいる焼きそばは、わたしの焼きそばなのだから。

わたしの焼きそばですよ……わたしの……や・き・そ・ば・パン。

パン……パン……。

ちんぽがソースでグチョグチョですね。

店長のちんぽは、皮が少しアレなようで。

……剥きますか？

中途半端に露出している亀頭に、焼きそばを巻き付けて……このまま焼きそばパンでちんぽの皮を引っ張ります。

パンでちんぽの皮を剥かれる気分はいかがですか。

はあ、気持ちいいと。

そうですか。次からは一人で剥いてくださいね。

ズル剥けになりました。

……ちゃんと中まで洗ってますか？

ソースに塗^{まみ}れているので、汚いかどうかはよく分かりませんが……ニオイが……皮を剥いた瞬間に、古びた童貞のニオイがしました。

今まで、おしっこを出すこと以外にちんぽを使ってこなかった、射精童貞のカビくさいニオイです。

これからはちんぽの皮を毎日剥いてくださいね。一人でパンオナニーをして、剥きグセをつけてください。

ちゃんとちんぽ弄りで性欲を吐き出さないと、また勤務中に勃起してしまいますよ。

パンさえあれば、これからは一人で射精できますよね？

射精ですよ。おちんぼ射精。

……ん……店長は射精がどういうものかということ、まだ理解していないのですか？

……このままパンでちんぽをシコシコし続けると、おしっこが出るところから白くてドロドロの液体がトロリと漏れて、気持ちいい解放感を得られます。

それが射精です。

その歳まで射精のなんたるかもご存じなかったのですか。

性欲が無くても、エロ本ぐらい読んで勉強してください。

……まあ、店長にとってはそんなものより、こちらの方が魅力的ですものね。

奥までしっかり見えますか。店長がちんぽでグチュグチュ掻き回したパンですよ。

パンの割れ目で指で広げますから、中の様子をじっくりご覧ください。

甘いソースと我慢汁で中をこんなに湿らせて……スケベなパンですね。

おや、犬の尻尾のようにちんぽをフリフリなさって。どうなさいましたか。

パンの匂いを間近で嗅いで、射精への欲求が高まりましたか。

このパンに年齢分の精液をどっぷり中出ししたら、さぞかし気持ちいいでしょうね。

店長が生まれて以来、長年かけて溜め込んだ熟成濃厚ミルクを、この焼きそばパンに流し込みたいですか？

パンの柔らかいところにちんぽを思いっきり押し付ければ、最後の一滴まで気持ちよく吸ってくれそうですね。

ちんぽの先から粘り気のある我慢汁がトロトロ溢れてきました。

我慢汁が少し……白濁としてきたような気がします。

キンタマにずっしり詰まった精液が、ちんぽの方まで込み上げてきましたか。

我慢汁に精液が混じるぐらい溜まっておられるんですね。

早くパンの中に射精したいですか？

出す時は、ちゃんとパンの中にピュッピュ出来るように、パンでおちんぽを握り込んで差し上げます。

店長が大事に溜めた精液ですから、一番気持ちいいタイミングでお搾りしましょうね。

おちんぽをパンの中で優しくシコシコして、幸せなおちんぽ射精を覚えましょうね。

お射精したいですね？

でも、もう少し頑張つて、おちんぽに精液を溜め込みましょう。

お射精の時間になったら、気持ちいい精液をたくさんピュッピュさせてあげます。

などという甘い言葉をかければ、童貞はすぐ調子に乗って、一度の射精で大量の精液をびゅーびゅー出すようになるそうです。

まあ、店長のちんぽには響かないと思いますが。

店長の性欲は、全てパンに向いておりますものね。

店長のちんぽを喜ばせるのは、甘い言葉ではなく、こちら。ですね。

どうぞ、焼きそばパンの欠片です。

もう少しお口を大きく開けてください。

この欠片を店長の舌に押し付けて、舌を愛撫しながらちんぽをシコります。

……甘いのですか？

パンは言葉よりも甘いですね。

舌とちんぽで柔らかいパンを舐め回しながら、キンタマの中で精液をたっぷり掻き混ぜましょう。

……店長はベロからも我慢汁をお出しになるのですか？

唾液の量が凄いです。ベロちんぽですね。

……構いません。犬に舐められたと思って我慢します。

オナニーをしているのですから、涎ぐらい垂れるでしょう。

まあ、お口の中で涎まみれにされているパンは、店長のことを心底気持ち悪がっていると思いますが。

……舌と同じように、ちんぽもグリグリと愛撫して欲しいのですか。しょうがないですね。

これ以上圧迫するとパンが潰れてしまうかもしれませんが、童貞ちんぽの方もそろそろ暴発しそうなので、刺激を強くしてさっさと射精させてしましましょう。

……亀頭が気持ちいいんですね。

皮かむり童貞のくせに、亀頭でしっかり気持ちよくなれるんですね。

パンごしにちんぽの感触が伝わってきて、すこぶるキモいです。

はあ、そうですか、ここがとくに気持ちいいんですか。

ここはカリ首と言うんですよ。

カリ首の溝にパンを食い込ませて、短いストロークでシコシコしましょう。

……なんですか、その小刻みなヨガリ声は。

必死に声押し殺す女の子ですか？

わたしの指ごとパンにしゃぶりつくのは構いませんが、食べるのはパンだけにしてくださいね。

もうお口の中のパンは形が崩れてグチャグチャですよ。

まだパンをゴックンしないように。

わたしが合図したら飲み込んでください。

射精の直前に飲み込むように指示します。

食道をパンに犯して貰いながら、尿道に白い精液を走らせましょうね。

きっと、ミルクゼリーのような濃厚童貞精液が、ど。ど。ど。ぶ。出。ます。よ。

パンの強度がそろそろ限界です。

このパンパンに膨れ上がったちんぽも限界ですね。

最後はこうして二つに折ったパンに、カウパー垂れ流し状態の卑しいちんぽを、パツクリ啣えていただきましょう。

亀頭が丸ごとパンに包まれてしまいました。

中で焼きそばが触手のように蠢うごめいています。

わたしの指を甘噛みしないでください。

気持ち良過ぎますか？

ちんぽの扱き方も知らないオナニー童貞のくせに、ここまで射精を我慢出来たことだけは、褒めてさしあげます。

お口の中のパンを舌で巻いて、飲み込む準備をしてください。

ちんぽの力を抜いて……ちんぽの中で熟し過ぎたカビくさ精液を、パンの内側にたっぷりお出してください。

はい、どうぞ。

■射精ポイント

ぴゅっぴゅ……ぴゅっぴゅっぴゅっ……。

生温かくてクサいのが沢山出てますね。

どぶどぶ……どぶどぶ……ぴゅっぴゅ。

そんなに気持ちいいんですか。

パンが店長の初出はつだし精液を吸って、重くなってきました。

生まれて初めてのちんぽ射精、気持ちいいですね。嬉しいですね。

気持ちいいのがまだまだ出ますよ。

おしっこを出す時の要領でおちんぽに力を入れて、最後の一滴まで、
ぴゅっぴゅ、するんですよ？

ぴゅっ……ぴゅっぴゅっ……。

店長……このパン……後で食べましょうね。

トラック 02：パン生地コキ

店長。

あれから一週間経ちましたが、その後の性生活はいかがですか。

……そうですか。出来ればもう少し回数を増やしてください。店長さえよければ、休憩中に抜いていただいても構いませんので。

相変わらず勤務中に度々勃起しておられるので、抜き足りないのではと思います。

お客さまも店長の勃起を気にしておられるようです。

とくに女性客の時はもう。視線が。

はい、それはもう。破れたゴミ袋を見るような目で。

とにかく勤務中の勃起をどうかしていただきませんと。

うちの経営は常連客の方々に支えられているようなところがありますから、店長が一切顔を見せずに店の奥に引っ込みっぱなしという訳にもいきませんし。

……はあ、パンを使ったオナニーに抵抗があると。なるほど。

この一週間、どういったオナニーをなさいましたか。

……パンを舐めるだけ？ それで射精までいけますか？

パンの香りや味で勃起しても、御自分の手でちんぽを握ると萎えてしまうのですか。

手っ取り早くパンで挟んで上下に擦ればよろしいのに。

つまり、店長のちんぽがあまりにも汚らしいので、そのちんぽで可愛いパンを穢^{けが}してしまうことに抵抗があると、そういうことですか？

……店長。仕込みを終えられたばかりで恐縮ですが、もう一度新しい生地を捏ねていただけませんか。

店長が性的に倒錯とうさくしているようがimaiが、わたし個人にとつてはど
うでもいいことなのですが、この店の従業員としては、店長に……。

……はい、それぐらいの量があれば充分です。生地が滑らかになるま
で捏ね続けてください。

わたしも店長の隣に座ってよろしいですか？

ありがとうございます。

おや、おちんちんが……生地を捏ねているだけでこれほど厚かましい
大きさになってしまわれるのですか。

仕込んだパン生地はまだ発酵も済んでいないというのに、おちんちん
ばかり膨らませて。

店長……店長は自分に性欲が無いと思い込んでいただけで、実際は勃
起し放題の性欲魔人だった訳ですよね。

店長はこうして毎日パンを捏ねる中で……無意識のうちに、美味しい
パンへの欲求に、性的欲求が付随ふずいしてしまったのかもしれない。

……生地がまとまってきましたね。

このスベスベした生地の感触は……何かに似ていると思いませんか。

……いま店長の頬に触れているものは……パン生地と同じ感触、です
ね。

同じ感触なので、頬に密着しているものも、パン生地です。

わたしが喋る度に、店長の頬にスリスリと、生地が擦れて……。

……質の高い生地ですから、いい匂いがするのは当然です。

手をわたしに預けてください。

店長が頬で感じている生地を焼き上げると、このような……

女の子のお腹のような、モッチリした感触のパンに、なるかもしれません。……パンは生き物ですから。

もう少し上のパンに、触れてみますか……。

……なんですか。

まさかとは思いますが、このような草履^{ぞうり}みた乳をいくら撫でたところで、ふくらしたパンの感触と錯覚するのは無理があると、そう仰りたいのですか？

……クイニーマンを撫でていると思いませんい。

……分かりました、脚で結構。わたしのふとももをパンだと思って撫でるがいいです。

パンに触れるだけで勃起してしまうのなら、わたしの体をパンだと思いい込んで触ればいいのです。

店長は商売をやる者として、食のプロとして、多少の無理をしてでも女性の味を知っておくべきです。

ほら、好き嫌いをせずに脚に触りなさい。

パンを捏ねるように弄ればいいでしょう。

気遣いは無用です。不器用で童貞丸出しのキモオタに痴漢されたと思って我慢します。

……片手でパン生地を捏ねたままで構いませんので、ちんぽの強度を保ち続けてください。

店長がその手でいじくり回しているものは、パンです。

手の平から伝わるパンの感触に集中してください……。

……そうです……そうやってちんぽをヒクつかせながら、スカートの中のパンを撫でていればいいのです。

……ちんぽが切ないと？

しょうがないですね、このおちんぽは。

そのままわたしの……わたしのパンを、捏ね続けてください。

わたしはこのパン生地で、店長のちんぽを捏ね回します。

さっそく我慢汁が噴き出しました。

精液が溜まりに溜まっているのですね。精子クサくて適かないません。

パン生地でちんぽを捏ねて貰えて嬉しいのは分かりますが、犬のようにフリフリとちんぽを動かさないでください。カウパーが飛び散ります。もう少しお行儀よくしていただきませんと。

パン生地は偉いですね。少し捏ねただけでこんなに綺麗にまとまって。店長のちんぽはいつ安定しますか。

太い柱の先からいやらしい液体をトロトロ吐き散らすばかりで、一向にまとまる気配がありません。

あまりお出しになると、この生地の味が変わってしまいますよ。

そんなにパン生地の感触がいいんですか。

まだ生地ですよ。パンになる前の塊ですよ。店長は幼いパン生地でちんぽを捏ねられてスケベ汁をダラダラ漏らすような薄汚い変態なのか？

パンコンのうえにロリコンだなんて、店長は人として……いえ、男として救いようがありませんね。

そういうば店長は……パンの捏ね方にこだわりがあるそうですね。

そうやって手の甲でスカートを捲り上げて中の生地をねっとり愛撫するように捏ねると、美味しいパンが出来上がるのですか？

先週から、仕込みに掛かる時間が明らかに伸びましたね。

真剣な面持ちでパンを捏ねながら、下半身でこのような狼藉を働いていたのですね。
おもも
ろうぜき

少女の白い柔肌のような生地を執拗に撫で回し、しっとり湿ったちんぽの勃起を楽しんでおられたのですね。

褐色の肌が欲しい時は、生地にココアを混ぜるのかしら。

店長は……商品にするパンを痴漢のような手つきで捏ね回して、生地感触と勃起をじっくり楽しむような……正真正銘の変態セクハラゴミクズ野郎に成り下がってしまわれたのですか？

わたしは店長のことを、変態セクハラゴミクズ野郎ではなく、ただの変態だと思っていたのですが……やはりその認識を改めるべきかもしれません。

どうせセクハラを働くなら、堂々とやればよろしいのに。

……性的欲求を満たす為にパンを捏ねていたわけではないと。はあ、そうですか。

店長はわたしのふとももを触ることや、わたしの手でちんぽを扱ってもらふことで、性的興奮を得られますか？

いえ、手つきがとてもいやらしいので、元から従業員の体をそういう目で見ておられたのではと思います。

パンを通じてわたしの体に興奮を覚えるようになったというのであれば、何も問題はありません。むしろそれが目的です。

しかし、元から女性の体に興味があつて、有り余る性欲を誤魔化す為にパンを持ち出したというのであれば、わたしは店長を……

ウインナーロールにしなければなりません。

生地がちんぽに馴染んできましたね。

今回初めて店の生地を触らせていただきましたが、確かにこれは……滑らかで伸びと弾力があつて……捏ねているだけで気持ちがいいですね。

店長のお気持ち少し分かるような気がします。

……カウパーの塊が出ました。これをパンの具にされるおつもりですか？

パン生地と同じように伸びと弾力があつても、店長のちんぽから得られる感触は、気持ちよさの欠片も感じません。

トロトロでだらしのないちんぽですこと。

……このまま捏ね続けますか？ それとも、パン生地でちんぽを包くるんでシコシコをご所望ですか？

……はあ、シコシコがいいと。

パンでオナニーをすることに抵抗があるだのなんだのと紳士じみたことをのたまっておきながら、やはり本心ではパンシコオナニーをお望みなのですね。

店長がこれほどちんぽへの刺激に弱い方だとは思いませんでした。

パンを使ってちんぽを少しくニクニクして差し上げただけで、人が変わったように快感を欲するようになりますね。エロガキのようにガツガツと。

パン生地でこのちんぽをどうして欲しいんですたっけ？

パン生地でちんぽを包^{くる}んで？ ムニユッと握ってちんぽに密着させて？ 竿の根本から亀頭の先まで丁寧^{ていねい}にシコシコ？ ですか。

こうですか？

はあ、ちんぽの皮が生地を巻き込んで、凄く気持ちがいいと。

よかったですね。店長はシコシコリクエストがお上手なようで。

皮の中の生ちんぽを、パン生地にたっぷり握ねて貰いましょうね。

店長もしっかりわたしのパンを握ねてください。

握ねるというより、すぎるような手つきになっております。

しっかり握ねていただけるならいくら触っても構いませんが、そのようにイジイジとすがりつくような手つきで擦^{さす}られるのであれば、セクハラと認定します。

店長は今その手で、パンを握ねているのですよ。

なぜ女の子の脚に甘えるような手つきでパンを撫でているのですか。

店長はちんぽが気持ちよくなると、パンに甘えるクセがお有りなのですか？

……そこはパンではなく、パンツですよ。パンツを触ってどうするおつもりですか。

パンツ越しのパンの感触を確かめておられるのでしょうか。

……なるほど。パンが穿いていると思えば、パンツにも欲情出来るのですか。

そのパンツは店長のパンツではなく、わたしのパンツなのですが。

ちんぽをご覧ください。生地の中にちんぽがすっぽり収まって、まるでウインナーロールのようです。

これなら御自分のちんぽにも欲情出来ますか？ パンのようなちんぽですよ。

……返事をする代わりに我慢汁の塊を吐き出すのはおやめください。童貞のニオイが部屋に充満します。

店長のエロ汁が床にボタボタ垂れておりますが……汚い汁で店内を汚してもいいんですか？

止めどなく出ますね。家畜の乳搾りをしているような感覚です。

このちんぽから出る液体にも、家畜のミルク程の価値があればよかったのですが……残念ながら、店長の無駄撃ちミルクは何の役にも立ちませんね。

せいぜい御自分のちんぽをウインナーロールに見立てて、セルフでオカズにしてください。

店長のウインナーロールは不格好ですね。中のちんぽが太過ぎます。馬鹿みたいに太くて嫌になります。

ちんぽが大きければ偉いというわけではありませんよ。

店長の場合はただ精液が溜まり過ぎていただけです。

ちんぽミルクがパンパンに溜まって膨れ上がっているのです。

このキンタマも……焼きたてパンのように熱を帯びてふくらしますね。

童貞のカスタードクリームがたっぷり詰まった、キンタマクリームパン。

手触りもクリームパンのようにシットリしていて艶やかつやですね。

……なんですか、その潰れたコッペパンのようなお顔は。

……ふむ。射精させて欲しいと。

……そうですね……。……お断りします。

わたしに射精の許しを請うということは、わたしの裁量^{さいりょう}で射精のタイミングを決めていいということですよ。

こうやってキンタマをギュッと握られると、射精感が込み上げてくるんですね。

キンタマの中でドロドロのカスタードがニュクニュク泳いでいます。気味の悪い感触です。

本物のクリームパンであれば潰れないように丁寧に扱うところですが、店長のキンタマクリームパンは汚いクリームが詰まった何の価値もないパンなので、雑に扱っても構いません。

キンタマクリームパンを握られながらちんぽインナーの先端をパン生地でシコシコされる気分はいかがですか。

気持ち良すぎて言葉も出ませんか。

必死に射精を堪えておられるんですね。

わたしのふとももは店長の体重を支える為の柱ではありませんよ。

手の平で内ももを圧迫しながら指でパンツを引っ張らないでください。

その手つきは……。いつも店長がやっているパンの握ね方と、まるで違いますね。

店長がその手で触れているものは、パンではないのですか？

まさか、店長は従業員のふとももに性的興奮を抱^{いだ}いておられるのですか？

……。パンですか。……。そうですね、パンです。

従業員の内ももをオカズにするはありますがありませんものね。

……透明の我慢汁に混じって、濁った液体が少し飛び出しましたよ。
お漏らしミルクですか？

お漏らしミルクというより、お漏らしカスタードかしら。
やはり店長のキンタマに詰まっている精液は、色の汚い精液でしたね。
先週のオナニーで、年齢分の精液を全て出し切れなかったのかもしれない。

この汚らしいキンタマクリームパンは、もう廃棄しますか？

……なんですか。脚を密着させないでください。

……廃棄はしないので、もう少し離れてください。

ここで働き始めた当初は、まさか手の平に店長のキンタマをグイグイ押し付けられることになるとは、思いもしませんでした。

というか、このキンタマ弄りは必要ですか？

店長のちんぽはまだオナニーに慣れていないのですから、パン生地でちんぽをシコっているだけで充分なのでは。

……キンタマの方はパン生地ではなく、わたしの素手で握っているのですよ。

……パン生地の滑らかな感触がちんぽに効きすぎて、性感帯の感度がバカになっているのかもしれませんがね。

床に……店長が出した我慢汁の液だまりが出来ていますよ。

後で舐めて綺麗にしてくださいね。

……床を直接舐めることに抵抗があるのなら、パンに塗って食べればよろしいのでは。

店長なら……パンさえあれば、御自分の濃厚ちんぽカスタードも、美味しくいただけると思います。

……またちんぽから少量のカスタードを漏らしましたね。

パンがちんぽカスタードでドロドロになるところを想像して、お漏らしを我慢出来なくなりましたか。

鈴口を丸出しにしているから汚い粘着液が漏れてしまうのです。生地を伸ばして亀頭を全て覆ってしまいましょう。

……伸ばすのはパン生地です。ちんぽはそれ以上伸ばさないでください。

パン生地でシコって貰う面積を少しでも増やそうと必死です。性欲丸出しの無様なちんぽです。

ちんぽがパン生地の中にすっぽり隠れました。

パン生地で作ったおちんぽケースですよ。馬鹿デカいちんぽ用のケースがあつてよかったですね。

さつそく中で我慢汁をびゅーびゅー漏らしてやがります。

ちんぽをシコシコする度に、亀頭の先がパン生地の奥にパチュパチュとぶつかっています。

我慢汁とお漏らしカスタードのお陰で、中がグチョグチョですね。

気持ちいいですか？ よかったですね。

ちんぽの滑りを良くする以外には何の使い道もないちんぽ液ですから、好きなだけ中で漏らしてくださいね。

分かっていると思いますが、本射精ほんしゃせいはまだですよ。

……店長。

ふとももに甘え過ぎです。

……脚を閉じればいいんですか？

ふとももで手を挟んで欲しいんですね。

ふとももサンドウィッチですか。はあ、なるほど。

店長。泣かないでくださいね。

射精を堪えすぎて涙目になっている上司の姿を見るのはさすがにキツイです。

……しょうがないですね。射精を許可します。

このストロークならすぐに出るでしょう。

パン生地を握り込んでちんぽ全体をシコシコしますから、勝手に射精してください。

ちゃんとパン生地の奥までちんぽが届いてますか？

自分で腰を浮かせて、パン生地が一番奥にちんぽを打ちつけるんですよ。

しっかりちんぽを打ちつけないと、情けない暴発射精になってしまいますよ。

パン生地の中で気持ちよく精液を出したいなら、頑張つて腰をヘコヘコしてくださいね。

もう出ますか？

はい、一番奥でどうぞ。

■射精ポイント

……ひどい量ですね。

パン生地越しであつても、中の惨状が手に取るように分かります。

生温かいカスタードが逆流して、パン生地の隙間から漏れております。せつかく中に出したのに、残念ですね。

このカスタードは廃棄物なので、床に落ちるのがお似合いです。

キンタマクリームパンに残ったカスタードを押し出して、全てちんぽから搾り出しましょう。

……出し終わるまで、ちんぽを擦り続けた方がいいですか？

……しようがないですね。

搾り残したカスタードを無闇に漏らされたら、クサくて堪りませんので。

トラック 03…焼き上がり

いかがですか、お味は。

……わたしの感想ですか。

……率直に申し上げて、風味も食感も最低です。

生地段階で店長の我慢汁と精液をたっぷり吸ったパンなのですから、当然の結果ですね。

パン生地に店長の精液を練り込むつもりは毛頭なかったのですが、性欲に溺れる店長の姿があまりにも気持ち悪かったので、つい。

……店長。

店長はパンが好きですか。

パン屋の店長がパンに対して欲求を抱くことは、ごく自然なことだと思います。

パンは食べるものですが、パンに対して湧き上がる欲求は、食欲だけではありません。

自分で作るパンの質への欲求。食べる人を満足させたいという欲求。パンを配置して売り場を構成する欲求。こういった心理的な欲求は、はじめから持っていないくとも、当人の気持ち次第で、後からいくらでも付け足すことができます。

しかし店長の場合は、性欲という生理的な欲求が後から生まれたわけです。

店長は、パンに対する欲が深すぎるあまり、心理的欲求だけではその穴を埋めることが出来ず、無意識のうちに性欲を生じさせてしまった、のかもしれない。

その性欲を……パンではなく女性に向くように矯正するか、あるいは意識的にパン作りへのエネルギーに変換することで発散していただけれ

ばと思ったのですが、どちらも成功とはいいがたい結果に終わりましたね。

……とりあえず焼いてはみましたが、やはりこれは失敗作ですね。

店長のおちんちんと一緒に捏ねた生地ですから、美味しいパンになるはずがありません。

調子にのって30個も焼いてしまいました。

……………お食べになるのですか。

ふむ……。

……店長。わたしが間違っております。

食べられるパンは、失敗作ではない、と、思います。

あむ……。

トラック 04…フランスパン素股

店長。

後はわたしが店番をします。休憩をお取りください。

……なんですか。

別に睨んでません。

昼ご飯の食べ過ぎで苦しいだけです。

昼休憩の直前に店長がフランスパンを一本まるごとくださったので、これを平らげてギリギリ働けということかと思って、胃の中に詰め込めるだけ詰め込んだのですが。

はい。食べきれませんでした。

そういえば、店長が売れ残り以外のパンをくださったのは、これが初めてですね。

……店長。わたしが食べ残したフランスパンの断面を見ておちんちんを膨らませるのはおやめください。

……溜まってるんですか？

未だに御自分の手では射精もままなりませんか。

……まさか、このフランスパンで抜いて欲しいんですか。

そういうつもりでないなら、どういうつもりでおちんちんを膨らませているのですか。

いくら言葉で否定なさっても、そのト口顔を通して発せられる言葉には何の説得力もありません。

店長はいつ一人エッチを覚えてくださるのですか。わたしにパンで抜いて貰うのがクセになっているような気がします。

わたしは店長の性処理係ではないのですが。

はあ。一人でパンオナニーをしても、罪悪感が勝^かつてしまい、あまり快感を得られないと。

わたしが居なくなったら、その性欲をどうなさるおつもりですか。

よその店のパンをレイプするようなことになったら最悪ですよ。

……しようないですね、とりあえず抜きますか。

切り過ぎた前髪のようなスカートを穿いた店員と、膨らみ過ぎたマフインのようなちんぽをひけらかす店長が店番をしていては、ただでさえ少ないお客さまが、更に寄り付かなくなってしまうますから。

で、このフランスパンでよろしいんですか？

店長、ひとつ言っておきますが……バイトの子にあげたパンの食べ残しを取り返し、それでオナニーを手伝わせるなどという行為は、一般的な観点からすると、とても非道徳で浅ましい行いですからね。

なので、わたしに深く、深く深く感謝してください。

どうぞ。フランスパンの中身を少しえぐり出しました。

ここにちんぽを突っ込んでさっさとちんぽ液を出してください。

ちようど食べ頃ですから、中は凄く気持ちいいのでは。

ほら、ふわふわですよ。

これならわたしが居なくとも、一人でオナニーをして気持ちよく射精出来るんじゃないですか？

……はあ。わたしにやって欲しいと。

店長はわたしをクッションにしないと、パンを使ったちんぽ慰めも満足に出来ないんですか？

オナニーとは本来、一人でやるべき行為ですよ。

二人でしか出来ないなら、それはもうセックスです。

……パンとセックスしてみますか？

どうぞ。わたしの股めがけてちんぽを突き出してください。

……この、わたしの脚で挟んだフランスパンに突っ込むですよ。

ちゃんと一人で挿入できますか。

ちんぽの皮を摘まんで、剥き剥きしてから挿れるんですよ。

亀頭をパンの穴にゆっくり埋めてください。

そのままズブっと奥まで。

中の具合はどうです。ちんぽを気持ち良く出し挿れ出来そうですか？

中途半端な状態で精液をピュッピュしないでくださいね。

キンタマの中の精液を全てちんぽに充填してしっかり出し切らないと、フランスパンに嫌われますよ。

お漏らしミルクはそろそろ卒業してください。

ちんぽミルクをトロトロ漏らすよりも、我慢汁を大量に分泌して最後に勢いよく濃厚精液を射精する方が立派です。男らしいです。

パンに生ちんぽをハメる気分はいかがですか。

わたしは動きませんから、どうぞ御自分で腰をへこへこなさってください。

……はい、その動き方でいいと思います。

脚を開いて小刻みに腰をへこへこしている様子はカエルにしか見えませんが、気持ち悪くて面白いので大丈夫です。

フランスパンにちんぽが馴染んできましたか？

ちんぽが気持ちよくなるところを探して、その部分に繰り返しちんぽを擦りつけるんですよ。

どうしました。もうちんぽミルクが昇ってきましたか？

まだ出さないでくださいね。

勝手に射精したら、店長が店のパンと性行為に及んだことをお客さまに言いふらします。

腰をヘコヘコ振るのに夢中ですね。腰振りオナニーの味を覚えてしまいましたか。

……オナニーではなく、セックスでしたね。失礼しました。

ちゃんとパンの穴にちんぽをズププリ挿入してセックスをしておりますものね。

パンくずがポロポロこぼれていますよ。もう少し優しく出し挿れした方がいかもしれません。

フランスパンの白くて柔らかいふわふわホールおちんぽで優しくゴシゴシしてあげてくださいね。

フランスパンの香りが昇ってきました。

店長の生ちんぽにも、フランスパンの芳ばしい香りが纏わりついてるのでしょね。

店長。顔面が気持ち悪いです。

柔らかいパンの中にちんぽを突っ込んでいる幸福感で顔がトロけてしまいましたか。

フランスパンの中で我慢汁をたくさん出して、ちんぽもトロトロにしてくださいね。

フランスパンの皮はしっかりしているの、中でいくらエロいおしっこを漏らしても、外まで染み出ることはないと思います。

ちんぼの具合はいかがですか。ちゃんと中でズル剥け状態を保ってますか。

このちんぼの皮はフランスパンと違ってビロビロでだらしないので、中で皮かむり状態になっていないか心配です。

そうなったらただの皮オナですね。

せっかく美味しいフランスパンのふわふわホールに挿入しているというのに、皮オナで果ててしまったら情けないにも程がありますね。

……はあ。本当中で皮かむり状態になってしまわれたのですか。

そうですか。正直に言えて偉いですね。

わたしが脚でフランスパン越しにちんぼを締めつけますから、もう一度しっかりと剥いてくださいね。

どうぞ。ちんぼを擦りながら剥き剥きしてください。

次からは一人で剥くんですよ。

セックスの最中に第三者にちんぼの皮を剥いてもらっているようでは、そのうちお相手のフランスパンに呆れられてしまいますよ。

そういえば、わたしはフランスパンといえば噛み切りにくくてパサパサしているものだと思っていたのですが、このフランスパンはカリカリのフワフワで微妙にしっとりしていて美味しかったです。

……わたしの腰を掴むんですか。

いえ、別に構いません。その方が腰をへこへこしやすいのでしょう。

店長はわたしとセックスをしているのではなく、フランスパンとしているのですから、どうぞお気になさらず。

わたしの下半身を使って好きなだけパンと愛し合ってください。

童貞丸出しの腰つきを間近で見続けるのはキツイですが、前世のカルマかなにかを清算している最中ださいちゆうと思つて我慢します。

先ほどから店長の生温かい息がわたしの顔に吹きかかりまくっているので、出来ればハアハアするのだけは控えてください。

……吐息を我慢して悶えている顔面をこの距離で直視させられるのも、なかなかキツイですね。

パンの中はどうなってますか。もうグツチョリですか？

それだけ気持ちよさそうにちんぽを出し挿れしているのですから、きつと気持ちのいい液体が出まくりでしょうね。

このちんぽはすぐビチャビチャになりますからね。

そろそろこのフランスパンも、ちんぽによる快感を覚え始めた頃合いでしょうか。

……ふむふむ。

また中で皮かむりちんぽになっているので、感触が最悪だそうです。フランスパンがそう言ってます。

ただデカいだけでテクニックが皆無です。さつさと一発漏らして、後は一人でシコっていればよろしいのでは。とも言ってます。

とにかく腰の振り方が最低です。本人は力強く腰を振っているつもりかもしれませんが、実際のところはキンタマを揺らしながらちんぽを浅く押し引きしているだけの情けない往復運動です。

……いえ、今のはわたしの感想です。

まあ、店長が気持ちいいならそれでいいと思います。

もう少し脚でパンを圧迫した方がいいですか？

ほら、キツキツのフランスパンまんこですよ。

この中でたくさん皮かむりちんぽを擦って、パンくずを抉^{えぐ}り出しながらドロドロのちんぽミルクを押し込みましょうね。

射精する時ぐらいいは頑張って皮剥き生ちんぽにしてくださいね。

……はあ、もう白いおしっこが漏れかけていると。

射精を許可したつもりはなかったのですが、すっかりその気になってしまわれたようですね。

さつさとそのデカいだけのバカちんぽから童貞ミルクをドクドク漏らして、みっともない腰振りを終わらせなさい。とフランスパンが言っています。

何故わたしの脚やパンツを触りまくっているのですか。

射精が近くなるとすぐその辺のモノにベタベタ甘えますね、店長は。

フランスパンちゃんにちんぽを出し挿れしながらふともものに甘えるのは……メーでちゅよ。

それが射精用の腰振りですか。ようやくまともな腰つきになりましたね。

店長。店長の脚の付け根が、わたしのふともものにペチペチ当たっているのですが。

随分気持ちよさそうですね。

そろそろ射精しますか。

フランスパンの中頃あたりを指で圧迫します。この部分にカリ首の気持ちいいところを引っ掛けて、たくさん擦ってくださいね。

ちゃんと「フランスパンちゃん中に出すよ」と言いながら射精するのですよ。

どうぞ、ピュッピュしてください。白いおしっこピュッピュのお時間です。

■射精ポイント

びゅっびゅ……びゅっびゅ……びゅ……。

……出ましたね。

フランスパン越しでもはつきりと分かるぐらい強烈な射精です。

いつものように大量の濃厚ミルクが注ぎ込まれています。

ピュッピュというよりビュービューといった感じです。パンの中で跳ね回っているちんぽの感触がとてもキモいです。

でっかい亀頭を一番奥に押し付けて、特濃精液をたっぷり注いでくださいね。

……わたしに抱きついていないと精液搾りも満足に出来ませんか？

本当はパンに抱きつきながら射精したかったのですが、この体格差では難しいでしょうね。

まだちんぽは抜かないでくださいね。

発射したちんぽミルクをパンが吸いきるまで、そのまま押し込み続けてください。

もう出終わりましたか。

では、射精直後の膨らんだ亀頭でフランスパンの奥をグリグリ掻き回してください。

今のちんぽに刺激を与えるのはツライですか。

抱きついたままで構いませんので、頑張つて少しかグリグリしてください。

ちんぽの中に残ったミルクを搾り出しながら、フランスパンの一番エロい所を、ぶつとい亀頭でグリグリ掻き回してください。

グリグリ……グリグリ……。

ちんぽの先っぽを擦りつけながら漏らすミルクは最高ですね。幸せですね。

今日はちゃんとおまんこで赤ちゃん汁を受け止めて貰えましたね。

よかったですね。無駄撃ちじゃありませんね。

よちよち。

一旦抜きます。

……逆さにしても一滴もこぼれませんか。小汚い精液が美味しいパンに全て吸収されてしまいました。

中をぐらんください。

一番奥、分かりますか。我慢汁と精液を染み込ませた部分です。

そこを亀頭でグリグリ捻げたので、穴の奥に、更に一回り大きな穴が空きましたね。

これがフランスパンちゃんの子宮です。

ココにもう一度生ちんぽをハメて、白いおしっこをお抜きください。

今度は後ろからやりますか？

どうぞ。好きな体位でちんぽを擦り尽してください。

……後ろからグイグイ密着されると、わたしがパンの棚にぶつかってしまいます。

腰をぴったり密着させて覆いかぶさるように抱きつくのが好きなのですか？

動物の交尾みたいですわね。

体温が気色悪いです。もう隙間がないぐらい密着されてます。

そんなにくっつきたいんですか。

わたしの体はパンではありませんよ。

……いえ。パンでしたわ、わたしの体は。

パンに抱きついてパンの感触をオカズにしないと、体位を変えた意味がありませんものね。

フランスパンちゃんの体は気持ちいいですか？

小刻みに腰をへこへこするだけではなく、ちんぽを大きく引いてパンの中全体をゴシゴシするんですよ。

ちんぽミルクの出し残しとヌルヌルの我慢汁を漏らしながら、フランスパンちゃんの子宮を鈴口でノックしてあげてくださいね。

頑張ってちんぽを伸ばせば、子宮の中まで亀頭が届くかもしれません。

エロい涎まみれのちんぽでキスをしてあげてください。

フランスパンちゃんの子宮にちんぽで吸い付くんです。

もつと力強く腰を振ってちんぽを奥までねじ込まないと、気持ちいいキスを味わえませんよ。

必死にちんぽを伸ばしてようやくバードキスが成立するぐらいの情けないセックスです。一度出しているというのに余裕がなさすぎてキモいです。

と、フランスパンちゃんが言っています。

……腰つきが変わりましたね。

フランスパンちゃんに男らしいところを見せたくて頑張っておられるのですか。

店長はピストンの音までパンなのですね。

パンパン。パンパン。

精液が漏れてしまう寸前までパンパンして、ギリギリのところでピストンをとめてください。

パンパン。パンパン。

もう精液が尿道の方まで昇ってきましたか。

店長の顔を見なくても分かります。店長は射精が近づくとすぐパンの体に抱きついてスリスリ甘えるので。

ちんぽを思い切り押し込んで、腰の動きを中断してください。

フランスパンちゃんの中でちんぽが膨れて震えています。

どうせいつものようにお漏らしミルクをトロトロ漏らしているのですよう。

ちゃんと子宮の中にお漏らししてますか。

……抱きつき過ぎです。陳列しているパンがこぼれてしまいましたよ。

……このパン、わたしが買ってもいいですか。

では二つともいただきます。

はい、どうぞ。抱きついたまま、このわたしのパンを両手で一つずつ掴んでください。

これならふくらして揉み心地も抜群でしょう。

潰れない程度に揉んでください。

……どうなさいましたか。

……はあ。ちんぽを動かしていないのに射精感が収まらないと。

……パンに密着しながらパンを揉み揉みするのがそんなに気持ちいいんですか。

まさか腰振りを中断している間にイッてしまわれるのですか。それは本当に情けないですよ。

お漏らしミルクの時点で相当みつともないのですから、本射精ほんしやせいだけは我慢してくださいね。

ちんぽから惨めな暴発ミルクが漏れてしまう前に、さっさと腰振りパンパンを再開してください。

……それはパンパンではなく、ヘコヘコです。

そのような甘やかしピストンでは、フランスパンちゃんから苦情が出ますよ。

尿道にちんぽミルクが昇りっぱなしなんですか？

オカズを与えすぎましたね。

フランスパンちゃんの苦情がすぐそこまで迫せまっています。

……ふむふむ。

フランスパンちゃんが自ら腰を動かしてちんぽを出し挿れしてくれるそうです。

よかったですね。

腰の力を抜いて、相手の動きに身を委ゆだねてください。

店長は射精を堪こらえることだけに集中していればいいです。

あとは勝手にフランスパンちゃんの膣内でちんぽが擦れて気持ちよく射精できます。

フランスパンちゃんのエッチな腰つきで気持ちいいおしっこをたくさん抜いて貰えますよ。よかったですね。

店長の童貞セックスで乱暴に掻き回されてしまったので、フランスパンちゃんの膣内はもう火照ってトロトロです。

ちゃんと童貞ちんぽでフランスパンちゃんの中を味わってますか。

こうやってちんぽを深く出し挿れた後、子宮付近をねっとり撫で上げ、射精しそうになったところで動きを止めて、子宮にじっくりちんぽキスをします。

これがセックスです。

フランスパンちゃんの子宮に、鈴口でたっぷり吸い付いづくがいです。

フランスパンちゃんは恐らくもう二度とセックスをさせてくれないと思いますので、射精を限界まで我慢して、たっぷりちんぽキスの快感を味わってくださいね。

はあ、もう限界ですか。

残念ですね。

店長のちんぽは堪え性だけが取り柄のちんぽだと思っていたのですが、そうでもなかったようです。残念ちんぽです。

もう射精して構いませんよ。

せめて一番奥に届いたタイミングでピュッピュしてくださいね。

どうぞ、駄目ちんぽの駄目ミルクをたっぷり中出ししてください。

■射精ポイント

出ましたね。

パンに抱きついてパンの柔らかいところを抱き締めながらビュービュー出すといいです。

子宮にちんぽをグイグイ押し付けて、一滴残らず注ぎ込むですよ。フランスパンちゃんに子種汁をたくさん仕込みましょうね。

気持ちいいですか。そうですか。

もう少し出ますか？ 最後の一息です。頑張って気持ちいいミルクを子宮に垂らしてくださいね。

射精が落ち着いたら、ちんぽをゆっくり引き抜きましょう。

……ちんぽミルクが止まったらちんぽを抜いてくださいね。

……いつまでわたしのパンを揉んでいるのですか。

ちんぽミルクを小出しにしながら名残惜しそうにパンを揉むのはみつともないのでやめなさい。

と、フランスパンちゃんが言っています。

……揉み過ぎです。買ったばかりのわたしのパンを揉み潰すおつもりですか。

……そんなに抱きついて、もう何も出ませんよ。

出した後の余韻は女々しくて気持ち悪いですが、射精の時だけは勢いがあって……まあ……男らしいセックスでした。

……今のは……。さあ……どちらの言葉でしょうね。

トラック 05…パンを載せる

店長。このフオカッチャ・ドルチェというのはどういったパンですか。

……甘いフオカッチャですか。なるほど。

で、フオカッチャというのは一体？

……ふんふん。

スー……。

確かにオリーブオイルの香りが凄いです。

一つ買います。

……このダンゴムシの集合体のようなパンは？

……ツオツプ？

美味しいんですか？

……分かりました。これも買います。

……この間いただいたフランスパンの味や食感が、今までに味わったことのないものだったので、他のパンも一通り食べてみようと思いましたが。

はい。よく分からないパンが多いです。

店長が毎日のように焼くパンを変えるからです。

前から気になっていたのですが、そのパンがどういったパンかという解説を、値札に添えたりされないのですか。

名称すら書いていないパンもありますね。

うちは店が小さい割りにパンの種類が豊富なので、それぞれに何かしらの解説を添えた方が売れやすいのでは？

……パンの情報は、見た目と香りだけで充分、ですか。……なるほど。
では、この……名称も分からないパンをもう一つ買います。
今日はこれぐらいにしておきます。

……勝手にネコさんのパンをトレイに載せないでください。

……店に置いてある中で最も高価な売れ残り常連パンを載せないでください。

いくつ載せるつもりですか。

ん……勝手に載せた分はオマケですか。

……この店のパンを過剰に食べて肥満したわたしを見て、悦に入るおつもりですね。

いやらしい。

トラック 06：パンくずキス&耳舐め

勃起店長、お疲れ様です。

閉店作業が終わりました、勃起店長。

仕込みは順調ですか？ 勃起店長。

どうなさいましたか、ムツシュ勃起。

売れ残りのパンをいただけのんですか。

ありがとうございます。明日の朝食にします。

最近あちらの方はいかがですか。少しは女体によたいに興味が湧きましたか？

はあ、女体を目にする機会がないので分からないと。

今の発言は、わたしに対する侮辱でしょうか。

店長の前で、毎日のように脚をパンチラ寸前まで晒しているのですが。

……店長は確か……ガラケーでしたね。

今どき珍しくパソコンも無しと。

……今度の定休日に、エロ本を見に行きますか？

店長に合いそうなエロ本を、一緒に選んで差し上げても構いませんけど。

……ところで、パンに対する性欲を自覚する前と後とで、パン作りに関して何か変化はありましたか。

……わたしが食べた限りでは、パンの味に変化はないように感じます。いえ、店のパンに不満があるわけではないのですが。……試しにその精力を、パン作りに向けてみませんか。

……では……。

生地を材料を一通り用意して、向こうの部屋へ行きましょう。
調理場を使うのは、衛生上よろしくないのです。

そういえば、このあいだ店の売り場でフランスパンとセックスをしたのは最低でしたね。

反省します。

店長はもうせい猛省してください。

ということ、

今夜はわたしも最後まで仕込みをお手伝いします。

そこにお座りください。

対面座位です。

……なんですか。わたしの体は小麦粉のように軽いので、何も問題はないでしょう。

もう少し手を伸ばせますか。

わたしのお尻辺りまで。

そこに生地を置いてあるので、手を伸ばしてパン生地を作ってください。

おちんちんが一気に膨張しました。

相変わらず無遠慮ぶえんりよなちんぽですね。

しかしまあ、今日はいくら勃起しても構いません。

むしろ勃起してください。勃起を恥じる必要はありません。

パンに対するありとあらゆる欲を引き出し、欲をシームレスにしましょう。

そして、最大限の精力をパン作りに注ぎ込んでください。^{そそ}

店長。液状の欲が、衣服の表面まで染みております。

このまま密着していると、わたしのパンツにまで染みてしまいそうです。

パンツ濡らされ手当では出ますか？

童貞の卑しいスケベ汁ですから、手当てを多めにいただきますねと。

……ああ、店長はフランスパンで童貞を卒業されたのでしたね。

せっかくパンに童貞を卒業させて貰ったというのに、童貞臭さがまるで抜けませんね。いつもの童貞ちゃんぽ顔です。

パン生地の方はいかがですか。

以前、店長のちんぽで生地を捏ねたことがありましたが、やはりあいつた行為は質の低下を招くので、今回はしっかりと手で捏ねてください。

予め言うておきますが、今回は射精しないでくださいね。

衣服も脱がないでください。

パンを作る為だけに性的快感を高めましょう。

パンに対する店長の性欲をそのままパンに落とし込めば、お客さまがこぞって買い求めるような、とても質の高いパンを作ることが出来るかもしれません。

……どうしました。両手でわたしの体を抱いていては、パンを捏ねることが出来ませんよ。

おちんちんが切ないんですか。

どうぞそのまま切なさを持て余してください。

射精さえしなければ、パンを捏ねる合間にわたしの体を好きに弄って構いませんので。

本来であればこういった行為は衛生的によくありませんが、今回作るパンは試作品なので大丈夫です。

わたしの体は綺麗なので、いくら触ってもパンの味に影響を与えることはありません。

やたらとそこを触りますね。

……わたしの体の中で、ふとももが一番良い触り心地なのですか。

ありがとうございます。すごく気持ち悪いです。

生地の方はいかがですか。

……ようやく分量が決まったところですか。

まだ捏ね始めてもいなかったのですね。

わたしのふとももばかり捏ねているからです。

ちんぽが気持ちいいのは分かりましたから、頑張ってパンを捏ねてください。

ちんぽを丸出しにしなければパンツにちんぽを擦りつけても構いませんから、パンも捏ねてください。

どのようなパンを作りましたか。……そうですね……ふともものようなパンにしますか？

これだけ無遠慮にふとももの感触を貪っておられるのですから、イメージを掴みやすいでしょう。

サンプルがすぐ手の届く範囲にありますから、どうぞ勝手に触って資料にしてください。

……生地はまだまとまっていないようですね。

ベタベタした生地を触った手でわたしの脚に触れると、サンプルが汚れてしまいますよ。

わたしは別に構いません。汚れて困るのは店長のほうでは？

……手の平の温度を保つために、わたしの温^{あたた}かいふともをこまめに触る必要があるのですか？

はあ、そうですか。とうとう言い訳を始めたか。

後で舐めて綺麗にしてくださいね。

……いえ、脚についた生地をパラパラと床にこそぎ落とすので、床を舐めてください。

ベタベタした感触がなくなってきましたね。

良いパンを作れそうですか？

ん……抱っこ？ 抱っこですか。

店長は抱っこをして貰うのが好きなのですか。

ようやく赤ん坊並みの性的感性が身についてきたということでしょうか。

おちんちんも赤ん坊並みであれば、まだ可愛げがあったのですが。

こんな感じでしょうか。

……まだムギュッと感が足りない？

店長。また手が止まっているのでは。

密着抱っこをして貰わないと、パンの一つも満足に捏ねられませんか。

どうしようもないワガママちゃんぽです。

普段は平然と勃起しているくせに、一旦こういった行為を始めると、途端に言動が気持ち悪くなりますね。

抱っこをせがみながらパンを捏ねているのですよ。気持ち悪くないわけがないでしょう。

しかし、欲というものは当人以外からすれば気持ちの悪いものでしょうから、気にする必要はありません。

ちんぽがヌルヌルした液体を漏らしながら小刻みに震えていますよ。本当に可愛くないちんぽですね。

…抱っこされながらパン生地やふとももを触っていると、とろけるような幸福感を得られるのですか。

女^{によたい}体に興味はなくとも、母体には興味津々といったところでしょうか。

スカートをめくって一番肉付きのいいところを触りますか？

ママのスカートになら、手を滑り込ませても怒られないでしょう。

まあ、めくるも何もないような短さですけど。

ちんぽの染みが広がっております。

透明のおしっこはいくら漏らしても構いませんが、白いおしっこのお漏らしはダメですよ。

わたしに抱きついてちんぽをスリスリしながらパンを捏ねるのは幸せですか？

ちんぽを擦りつける時の幸福感と、パンを食べる時の幸福感は、本質的には同じものだと思います。

幸福の波長が違うだけです。

……店長はその歳になって初めて性欲を感じたわけですから、その感覚に慣れていない分、他の人よりも幸福感を得やすい……のかもしれない。

……涎が。

これだけ間近で顔を突き合わせているというのに、よく恥ずかしげもなく涎を垂らせますね。

またパンで口内を愛撫して欲しいんですか？

抱っこして貰いながらパンを食べさせて欲しいんですか？

……ダメです。

そのまま食欲も持て余してください。

先ほど店長にいただいたパン……美味しそうですね。

……上半身をスリスリしながらちんぽでグリグリ甘えてこないでください。

そんなに食べたいんですか。

……こそく姑息にも頬ずりを覚えましたか。

そんな風にスリスリ甘えてオネダリすれば、何でも許可して貰えると思っ
てませんか。

そこまで甘くありませんよ。

……パンくずなら舐めさせてあげても構いませんけど。

……どうぞ。

……家畜に餌をやっている気分です。

わたしの指を舐める様が必死すぎます。涎を分泌しすぎです。

腕の方までペロペロしないでください。

わたしにくれたパンの袋を勝手に開けようとするのはやめなさい。

とりあえず涎をとめなさい。

……とまりませんか。

何故です。

……店長は抱っこをして貰いながらちんぽを甘く擦りつけると、凄く安心するのですか。

わたしのことを完全にママだと思ってませんか。

そんなことより生地作りの方はちゃんと進んでいますか。

……勝手にパンの袋をガサガサしない。

……しょうがないですね。新しいパンくずを舐めさせてやります。
なので、ちゃんと射精寸前までちんぽを硬くしてパンをコネコネなさい。

舐めさせてやりますから少し待ちなさい。

舌は引っ込める。ガツガツしない。

キス

……しっかりわたしの舌からパンくずを舐め取りましたか？
追加です。

キス

……パンくずキスでちんぽがパンパンです。
キスに弱いんですか。

童貞ですからね。しょうがないですね。

ちゅ……んふ、ちゅう……パンとセックスをした経験はあっても、人間とはまだでしょうが。

んちゅ、ちゅ……ん……ちゅる……ん……キスに弱い童貞ちんぽを、せいぜい服の中で滾^{たぎ}らせるといいです……。

キス

……クサイ息をわたしの口に浴びせ掛けないように。

キス

唇を押し付け過ぎです。

舌に吸い付こうと必死ですね。

そんなにパンくずが欲しいんですか。

耳舐め

残ったパンくずをこのまま耳に塗りつけてやります。

耳舐め

お味はいかがですか。

……そんなにガツチリしがみつかれたら、新しいパンくずを補充できませんよ。

パンは逃げませんから、少し力を弛^{ゆる}めてください。

あむ……んちゅ、ちゅつぶ……パンくずを舐めている間はちゃんとパンを捏ねるんですよ……。

キス

パン作りの資料としてわたしのふとももに触れるのは構いませんが、抱きつくのはそろそろ控えなさい。

何の為に抱きついてくるんですか。

耳舐め

……抱きつきながら生地を捏ねた方が、安心感が上乘せされてパンが喜ぶのですか？

何を言っているのかよく分かりませんが、パンの為になるなら、まあ、いいでしょう。

わたしが抱き締めます。店長は生地に手を置きなさい。

……頭もヨシヨシしますか？

……耳の温度が上昇中です。

耳舐め

耳にわたしの涎とパンくずを詰められるのが気持ちいいんですか。

耳を舐めるだけでここまでトロトロになるとは思いませんでした。

股間がぐっしり濡れています。

これは我慢汁ですか？

耳舐め

まさかおしっこじゃありませんよね。

耳舐め

……涎を垂らしながら寂しそうに口を尖らせるのはやめなさい。
キスのねだり方が気持ち悪いです。

キス

わたしの舌はおしゃぶりではありませんよ。
パンくずをしゃぶり尽くそうと必死です。無様です。
舌遣いだけでなく、手つきもどんどん意地汚くなってます。
お尻からふとももを手の平全体でスリスリ往復しまくって、柔らかな
肌の感触を貪るのに必死です。

ふとももに甘えるのは幸せですか？

……その幸福感を、パンに込めてください。

ちゅ、ちゅう……ん……んっふ……頭を撫でながら口を吸うと、ちん
ぽが立って……とても窮屈です……。

キス

どうどう……どうどうどう……。

イキそうになりましたね？

お漏らしミルクは禁止です。

耳舐め

お射精は禁止ですよ。分かりましたか？

ちんぽから白いおしっこを少しでも漏らしたら、もう抱っこしてあげませんよ。

……搾り出しかけたちんぽミルクを、情けない息遣いで必死に堪えながら逆流させています。

我慢汁まみれのちんぽが、服越しにくつきりと……。

耳舐め

太くてキシヨいちんぽです。

すぐに抱っこだの口移しだのをせがんでくるくせに、ちんぽだけは一人前です。最低です。

耳舐め

……わたしの髪に顔を埋めてハアハアしないように。

髪の毛の匂いを嗅がない。

甘えられるならどこでもいいんですね。

また口移しでパンくずをあげようかと思いましたが、どこでもいいなら、耳で構いませんね。

耳舐め

キスの直後に童貞クサイ息を浴びせ掛けられるのがあまりにも不快なので、このまま耳に詰め込んでやります。

耳舐め

焦らされちんぽが、嬉しそうに脈打ってます。

キンタマとちんぽの間で、ドロドロの汚いおしっこを行ったり来たりさせているのでしょうか。

パン生地の場合はいかがですか。

……そろそろですか。

では仕上げるに、耳の中に残ったパンくずを回収します。

耳舐め

童貞の味がします……。

耳舐め

お疲れ様です。

……綺麗な生地が出来上がりましたね。

……射精は許しません。まだパンを完成させておりませんので。

……興奮が落ち着くまで傍に居てあげますから、パン生地から手を離して、勃起を鎮め^{しず}ましょう……。

トラック 07…発酵待ち

せっかく品揃え豊富なエロ書店が見つかったというのに、一ミリも勃
起しませんでしたね。

……一ミリぐらいはしましたか？

……してませんか。

恐らくあそこの店員に、冷やかに来た美少女とその豚奴隷だと思わ
れましたよ。

エロ本がダメなら、エロゲーなんかどうですか。

エロゲーとパソコンを買って、店の経費にしましょう。

……まだ少し、時間に余裕がありますね。

このまま帰るのもアレなので、とりあえずこの非エロ書店に入りまし
よう。

店長は大衆向けの本など読めますか？

この『バナナ殺し』^{ごろ}は読めましたか？

……そうですね。是非読んでください。

このゲームもおすすめです。

店長はゲーム機を持っておられますか？

……そうですね。死んでください。

……くちゅんっ。

……いえ、大丈夫です。

冷房が効いているので、少し寒気が。

……上着を貸そうかどうか迷っておられるなら、迷わず貸してください。今がチャンスです。

……ありがとうございます。捨ててあるタイヤのようなニオイがします。

ついでに下着も脱いで全裸になってください。

……無理ですか。

いえ、無理なら無理で構いません。

わたしの言うことなら何でも従いそうな気がしたので、試しに言ってみました。

シャツを捲り上げて片乳首を出すぐらいなら出来ますか？

……本当にやらないでください、気色悪い。

次やったら通報します。

そういえば店長は普段何を食べておられるのですか。

……主食は芋ですか。……たまにコンニャク？　へえ……。

パンしか食べない人だと思っておりました。

パンしか食べないのも引きませんが、芋ばかり好き好んで食べていると聞いてそれ以上に引いてます。

一旦店に戻ってあの生地を二次発酵に移行した後、どこかで軽く食事をとりますか？

食べたいものを考えておいてください。

店長が食べたいメニューを一切置いていないような店にします。

パン以外の好物にもそういう癖^{へき}が出たら嫌すぎるので。

……店長。先程から何を見ておられるのですか。

……パンのレシピ本で、おちんちんを硬くしないでください。

トラック 08：ふとももパン

香りは……高いと思います。

色も綺麗ですね。

手触りは……本物のふともものようです。

まだ熱が残っているの、人肌の温もりを感じられます。

……では、早速試してみますか。

店長のいきり立ったソレ（※ペニスのこと）は、もう待ちきれない御様子です。

わたしはここで店長のオナニーを見届けさせていただきます。

時間の方はお気になさらず。

一晩ぐらい眠らなくともわたしは大丈夫です。

パンを二本使いますか？

間に挟んで……言うまでもありませんでしたね。

白くて凛々^{りり}しいふとももパンの感触を、店長のゲスゲスしい勃起ちんぽが、美味しそうに味わっています。

ちゃんと剥きグセをつけたのですか。偉いですね。

とは言え、擦っているうちにすぐ元通りの皮かむりちんぽになってしまうので、剥けば剥くほど惨^{みじ}めな気持ちになるだけかもしれません。擦り心地はいかがですか。むっちりしたパンの間おちんぽで何度も往復するのは最高ですか？

鈴口をパクパクさせて喜んでいます。分かりやすいちんぽです。

これ以上貼りつきようがないぐらい密着してますね。

膝からふとももの付け根まで、好きなところでちんぽを擦り放題です。成形にこだわった甲斐がありましたね。

店長が稚拙な腰遣いで必死にちんぽをゴシゴシやっているので、パンちせつの芳かくわしい香りが漂い始めました。

その香りを掻き消すようにクッサいちんぽ臭を撒き散らしているのも、相変わらずです。

店長。童貞ちんぽの先端で第一我慢汁を発見しました。

湧き水のようにチョロチョロと漏れ続けています。

パンを焼く前にあれほど先走り汁をお漏らしになったというのに、枯れ果てるどころか更に勢いを増していますね。

このちんぽの膀胱には、尿の代わりに大量の我慢汁が詰まっているのでしょうか。

ふとももパンが哀れでなりません。焼き上げられてすぐにこのようないやらしいちんぽのお世話をさせられるとは。

ふとももパンの間に亀頭を埋めてうずパンをモニモニ揉み始めました。

童貞店長は我慢汁をピュッピュしながら亀頭を柔らかいふとももパンで包み込むのがお好きなようです。

膨らんだ亀頭でふとももサンドウィッチの快感を貪ってやがります。

亀頭だけでなく、根本までまとめて挟んでネットリとちんぽを擦り始めました。欲張りちんぽですね。

ちんぽだけでは飽き足らず、とうとうキンタマ袋にパンを伸ばしました。

キンタマを押し付けてスベスベのふとももパンに甘えています。

オナニーの気持ち良さに食欲過ぎてドン引きです。

オナニーを手伝ってくれているのがパンでよかったですね。パンは何も言いませんから。

しかし、パンは生き物なので、内心引いているかもしれませんね。ただそれを表に出す手段がないだけで。

そもそも、自分が望むエロさのパンを自分の好きな形に作り上げてそれでオナニーをしているのですから、ありとあらゆるモノに気持ち悪がられてしかるべきです。

……なんですか。

やることなくて暇なので、暇つぶしに店長のパンオナを実況して差上げたのですが。

黙ってオナニーを見届けた方がよろしいですか？

ちんぽをビンビンにして喜んでいるように見受けられますが。

店長の変態性は、パンに限ったことではなかったのですね。

もともと変態の素質があつたのでは？

お尻の穴がみつともないです。

ヒクヒクと開け閉めを繰り返しています。みつともない事この上ないです。

ふとももパンを脚にピッタリくっつけて、

ちんぽ周りを大胆に使って食欲にふとももパンの感触を掠め取^{かす}っています。

最低の食欲さ加減です。ちんぽが一番気持ちよくなる擦り方を必死に探しています。

もう射精が近いようですね。射精直前の情けない甘々ピストンに移行しました。

ふとももパンを撫で擦る^{さす}手つきが、わたしのふとももに対してやっていたそれと、全く同じです。

傍^{はた}から見ると本当に気持ち悪いですね。

ちんぽが膨れ上がりました。

気持ち悪がられるのが気持ちいいんですか？

あーキシヨいキシヨい。

ふとももパンを両手でガッシリ掴んでちんぽをグリグリ圧迫し始めました。

締め付けられたちんぽが我慢汁の塊をビュービュー吐き出しています。垂れたエロ汁がふとももパンを伝っています。精液混じりのお漏らし汁です。最低のビジュアルです。

死んでください、変態セクハラゴミクス野郎。

と、ふとももパンが言っています。

自分で作ったパンにここまで蔑^{さげす}まれるとは、本当に可哀想なちんぽです。

嫌われちんぽが必死に気持ちいいミルクの発射を堪^{こら}えています。

ちんぽから白いおしっこが出るんですか？

勝手にお出しになればいいのでは。

わたしに白いおしっこのお漏らし許可を貰わないと、気持ちよく射精できない体になってしまわれましたか。

いいですよ。ふとももパンで精液がどれぐらい飛ぶか、間近で確認させていただきます。

どうぞ。ふとももパンによるちんぽ射精を許可します。

ハ~~~~~。

■射精ポイント

ぴゅっぴゅ。ぴゅっぴゅ。おちんぽぴゅっぴゅ。

すっごい飛んでますね。

ぴゅっぴゅ、ぴゅ~~~~~っ。

射精しながらふとももパンに甘えて、たくさんお搾りしましょうね。

ぴゅっぴゅ。どぴゅどぴゅ。

……気持ち良かったですか？

……お疲れ様でした。

……店長。

最終チェックです。

ちんぽをここに挿れてください。

……わたしのふとももの間に、ちんぽを挿し込んでください。

本物のふとももの感触と比較し、ふとももの再現度を確認しなければ、ふとももパンの完成とは言えません。

どうしました。もう打ち止めですか？

終わりなら終わりで構いませんが、ココでちんぽを擦って射精出来るのは、今だけですよ。

動かないでください。精液の搾り残しをなすりつけられるのが不快です。

……太いですね。ウンザリします。実に気色の悪い感触です。

わたしが気持ち悪がっているのを見て嬉しそうにしないでください。

……このままふともも素股で射精直後のちんぽを念入りに擦って、パンとの違いをしっかりと確認してください。

抱きつき方が甘えん坊丸出しです。

わたしは店長のママではないのですが。

……ちんぽが切ないと。

本当に底無しですね、店長のミルクタンクは。

またおちんちんの皮がビロビロですよ。

ちゃんと自分で剥けますか？

ハハハ……。……。

耳舐め

上手に剥けましたね。

……何をモジモジしておられるのですか。

……はあ、もっと褒めて欲しいと。

甘え過ぎでは？

……。

皮かむりおちんちんを立派な皮剥きおちんぽに出来まちたね。偉いでちゅね。

一人でおちんちん剥けて偉い。よちよち。

……褒められている最中に精液の搾り残しをチヨロチヨロ漏らすのはマナー違反ですよ。

甘やかすとすぐに何かしらの液体をピュッピュしますね。困ったものです。

パンは優しいので店長のちんぽ汁を残さず吸ってくれましたが、わたしの脚は店長のちんぽ汁を容赦なく弾^{はじ}きますよ。

わたしのふとももにエロい液体をなすりつければつけるほど、自分のちんぽがヌルヌルになっていきます。残念でしたね。

というかもうヌルヌルが凄いです。

ヌルヌルのちんぽが内ももにネットリ甘えてきます。心底キモいです。ほんのり温かい亀頭がちんぽ汁を追加で流し込んでキモさに拍車を掛けています。

両手で美少女の体をがっしり掴んでハフハフとクサイ息を吐き散らしています。ウザ過ぎます。

美少女のふとももを自由に使わせてあげているのですから、少しは感謝と謙虚さを覚えてください。

皮剥き生ちんぽをふとももの中に出し挿れするのに夢中ですね。浅ましいですね。

息が鬱陶しいので口を塞いでやります。

キス

……ベロチューのおかわりですか？

……パンくずはもうありませんよ。

ちゅっ……ん、むちゅ……んふう、キスしながらちんぽをグラインド
させてやがります……。

んちゅ、ちゅう、ちっない膣内を掻き回したつもりになってもなっているのでは
ようか……。

キス

童貞は素股とおまんこの区別もつきませんか。

今このちんぽを挟んでいるふとももは、先程のふとももパンと比べて
どのような違いがありますか。どちらがよりちんぽに効きますか。

……ほお……このふとももの中でちんぽミルクを漏らしてみなければ
判断が付きませんか。

ふうん……。

パンとふとももの区別もつかないんですか？

ちんぽがバカになってるんですね。

脚の中でぶつといちんぽがゾクゾクしっぱなしです。

……わたしの顔に口を押し当てるのは楽しいですか？

我慢汁だけでもたくさんなのに、更に唾液まで塗りたいられるとは。

その汚らしいお口に、綺麗な唾液を分けてあげます。

キス

意地汚いキスですね。

美少女の唾液をオカズに、ちんぽを限界まで膨らませてやがります。
わたしのパンツでカリ首をゴシゴシするのは気持ちいいですか？

反り返ったちんぽでパンツにすり寄ってきますね。

ねっとりしたちんぽ液をなすりつけられる感触が最高にキモいです。

んちゅ……ちゅぷ……どうしようもない甘ったれちんぽです。

キス

どこまで反り返るんですか。

パンツに鈴口がピッタリ密着して、ダイレクトに我慢汁を吸収させられていきます。

ちんぽでキスをしているつもりでしょうか。

キス

わたしは店長の抱き枕ですか？

すっかり抱きつきグセがついてしまいましたね。

抱きつきグセと漏らしグセが合わさって、もうこの世のモノとは思えないぐらい下劣です。

……吸いつきグセもありましたね。

キス

ちんぽの熱が凄いです。

精液を溜め込み過ぎです。

白いおしっこのお漏らしを必死に堪^{こら}える表情がとても不細工です。

射精を我慢すればするほど、キスの仕方がエロくなりますね。

もうこれ以上エロいベロチューはご容赦願いたいのですが。

さっさとわたしのふとももに負けてください。

ふとももちんぽで精子をぶちまけるといいです。

……もっと欲しいんですか。何がですか。

……ベロチューとふとももちんぽ？

どこまで性欲を伸ばせば気が済むのですか。

……わたしのふとももでちんぽをクポクポしながら、一晩中チュッチュされるおつもりですか？

キス

ちんぽの中が煮えたミルクでパンパンです。今にも溶けだしそうです。

ミルクのお漏らしを堪^{こら}えるのだけは一人前ですね。童貞のくせに。

お漏らしミルクをギリギリまで我慢している時のお顔がすこぶるキモいので、さっさと漏れ出すように脚でちんぽをコネコネしてやります。

……どうなさいましたか。

この程度の締め付けでちんぽから白い液体をピュッピュッしてしまわれるのですか？

さきほど店長がふとももパンでやっていた締め付けに比べれば、まだまだ弱い圧迫感だと思いますが。

腰をヘコヘコされないのですか？

もう自分からちんぽを出し挿れする余裕がありませんか。

鈴口やカリ首でふとももの気持ち良さをしつかり確認していただきますんと。

もう射精を堪えるだけで精一杯ですか。

自らふとももに腰を打ちつけられないとは、情けないちんぽです。

キス

ちんぽ擦りで得られなくなった分の快感を、キスで補おうとしています。

浅ましいです。エロエロちんぽです。

キス

非常に不快なキスです。

口をピッタリ密着させてチューチュー吸ってくるのが童貞くさすぎます。

こんなキスが好きなんですか。最低ですね。

キス

さっさと精液をピュッピュしてください。ふとももパンで精液を搾り出した時のように。

まだ漏らしませんか。

貪欲にも程があります。

思いきり抱きつかせてあげて、何度も唇を重ねてあげて、ふとももでちんぽを甘やかして差し上げているというのに。

このまま粘り続けても、もうこれ以上の快感は得られないと思います

……はあ、甘い抱っこが欲しいと。

何度抱っこをせがめば気が済むのですか。

……これでいいですか。菓子パンのような甘いベタベタ抱っこですよ。度々抱っこを求められるのがキモいので、もうずっと密着しててやります。

………そういうのは、恋人にでも言ってください。

ちゃんとふとももにおちんぽを出し挿れして、男らしいお射精を決めるんですよ。

……本当に溶けだしそうですね。

幸せ抱っこでおちんちんがトロトロになっちゃいまちたか？

よちよち。しょうがないおちんちんでちゅね。

店長はふとももの付け根辺りがとくに弱いので、ここにわたしのふとももを密着させて擦り合わせると、すぐにお漏らしミルクをトロトロし始めます。

店長には、トロトロの甘いお漏らしミルクがお似合いです。

キス

またちんぽがズル休みをしています。

ちゃんとふとももでちんぽを擦ってパンの感触と比較しなければ、ただ抱き合ってチュチュしているだけの変態行為になってしまいますよ。

キス

ふとももを擦り合わせるのがそんなに効くんですか。

下半身の動きが犬のようです。

ちんぽを前後に動かす余裕がないので、左右に押し当てて未練がましくふとももちんぽを続けておられるんですね。

しかし、わたしの脚はパンではないので、ひとりで動きますよ。

ほら。

ほらほら。

ちんぽが気持ちよくなるように勝手に動いて、ちんぽミルクをキンタマからちんぽへたくさん流し込みますよ。

そうやって抱きつけば抱きつくほど、ちんぽがふとももに深く埋まってどんどんお漏らしが近くなります。

おちんちんミルクを押し戻そうとしても無駄です。

ふとももでちんぽをヨシヨシしながら口を吸わせて、ちんぽに情けない敗北を味わわせてやります。

キス

そろそろ限界ですか？

情けないちんぽ汁をタラタラ漏らすといいです。

ふとももでちんぽをヨシヨシされて、甘やかしザーメンをピュッピュするといいです。

……大丈夫です。今ちんぽミルクを搾り出せば、今までで一番気持ちいい射精になります。

……思いきり抱きついて、ふとももの中でちんぽをギュポギュポしまちようね。

両手でわたしの体を触りまくって、童貞らしく気持ち悪い甘え方をしなさい。

ほら、これだけ体を絡めて射精すれば、きっと気持ちいいちんぽ射精になりますよ。

後は……

舌を絡めるだけです。

キス

ちゅ、ちゅっ……出ますか？ 出ますね？

んちゅ、んっふ……お漏らしぴゅっぴゅをどうぞ。

■射精ポイント

ちゅっ、んっ、ちゅう、ちゅ……キモいのが出ます。

キス

甘えきったまま、全部漏らすといいです。

キス

今までで一番濃いのが出ましたよ。

……おちんぽ……気持ち良かったでちゅか？

気持ち良かったでちゅね。……よちよち。

……パンだけでも、パン無しでも、ちゃんと射精までいけましたね。

これからは……わたしが居なくとも、一人でしっかりオナニー出来ますね？

……なんなんですか。寂しいんですか？

ふむ……。

……そういえば、食欲の方はいかがですか。

性欲が失せると、代わりに食欲が湧いてくるらしいのですが。

ふとももパンの味見がまだでしたね。

さつさと味見をされてはいかがですか。

……ん……わたしより、店長が先に味見をされた方がよろしいのでは。

……そうですか。では、いただきます。

パウ子は聖焼きそばを求めてシンガポールへ旅立った。

シンガポールへ行くことは前々から決めていたそうで、出発までの期間を用いる形でこの店でアルバイトとして働いていたようだ。店長は面接の際にそういった話を聞いたような気がして臍げに記憶を掘り起こしたが、やはり気のせいかもしれないのでそつと埋め直した。

思い出すことに思考力を割いたあげく思い出せない事柄は自分にとって不要な記憶であり、思い出すことに思考力を割いて結局思い出せる事柄もまた、不要な記憶である。というのが、店長の持論だった。本当に必要な記憶は、思い出す決心をせずともいつの間にか思考に割り込んでいる。

店長はシンガポールというワードから水を吐いているライオンをひたすら連想したが、聖焼きそばというワードからは連想すら起こらなかった。

それ以来、パンを捏ねている最中に『聖焼きそば』という言葉だけがふと浮かんでくることがあり、店長はその度に脳内で孤立した言葉をゆらゆらと漂わせる。

深い詮索はしなかったので、未だに何の連想も起こらない。

ただ、聖焼きそばはパウ子にとって必要なものであるようだった。向こうに骨を埋める可能性もあるとのことと、とにかくその必要性だけは窺えた。

パウ子が日本を去ってから三月ほど経過したが、相変わらず店は流行らず廃れずの生殺し経営で、新たな従業員を雇わずとも店長はなんとか一人でやれている。

ふとももパンは商品として店に並べてあるが、それがきっかけで繁盛するといったこともなく、ふとももパンはすっかり店の陳列に溶け込んだ。

旅立つ直前、パウ子は店長に一枚の紙を手渡した。手渡したきり何のアクションも無いので、ゴミ捨ての引き継ぎ役にされたのかと思った店長がクズかごに捨てようとしたところ、パウ子に冷酷の極みといった表情で睨まれてしまった。

すんでのところで紙をポケットに収めた店長は、紙の代わりにパンを渡せるだけ渡した。出来るだけ保存が利くように焼いたパン。

向こうで現地の焼きそばなり何なりを挟めるように淡泊に焼き上げたパンだったが、店長はそのことをすっかり伝え忘れたので、彼女は向こうで味の無いパンを嚙んでいるかもしれないなかった。

パウ子から手渡された紙には短い文字の塊が記されていた。

川名岬という文字の塊がやんわりと記憶の網に掛かる。店長はそれがベーキングパウ子の本名であることを知っていた。

パウ子の口からその名を聞いたことはないが、店に保管してある履歴書の名前欄にも同じ文字の塊が記されているので、経歴を詐称していない限り、川名岬はパウ子の本名に相違ないと店長は判断した。

試しに彼女を川名さんと呼んでみたところ、川名さんは雲隠れするようにサッとその場から消えた。

ちなみに、岬さんと呼んだ場合も同じ反応であった。

天使と墮天使の区別もついていなかったパウ子のことであるから、本名を知られると呪詛の対象にされるとか、クローンを造られるとか、そういう迷信じみた思想を持っているのかもしれないと店長は考え、自分なりの納得をつけた。

いずれにせよ、この文字の塊をわざわざ紙に記して渡してきたということは、パウ子にとっては必要なことだったのだろう。

必要という言葉はそれを構成している二つの漢字からして物々しく、この言葉が来たら最早逃げ場無しといった感じの圧迫感を受けるが、実際はそれほど大した言葉でもないということに店長は最近気付いた。そ

の対象に意味や価値があるか否かに関わらず、人にはそれぞれ必要なものがあるのだと店長は感じている。

そして乾いた音を立てて滅多に鳴らないドアベルが鳴る。

店長にとって必要なものがパンであるかどうかは定かではないが、少なくともこのドアベルの音色は、店長の耳に快く響いているようだった。